

## 鳴門教育大学 特色GP・専門職GPシンポジウム

# 「教員養成系大学」学部・大学院で 育成すべき教師力とは何か

- 学士・修士課程を関連させたカリキュラムのあり方 -

日時 平成20年12月13日(土) 13:00~17:00

場所 梅田スカイビル タワーウエスト  
スペース36(L)

主催 鳴門教育大学

後援 大阪府教育委員会 徳島県教育委員会  
鳴門市教育委員会 NHK徳島放送局  
徳島新聞社 四国放送

# 目 次

## 開 会

総合司会

鳴門教育大学 教 授 松 岡 隆（自然・生活系教育部）・・・・・・・・・・ 1

主催者代表挨拶

鳴門教育大学 理 事 田 中 雄 三（教育研究担当）・・・・・・・・・・ 2

## 基 調 講 演

教育現場に生きる教育実践力の構想

講 師

教 授 田 中 耕 治（京都大学 大学院教育学研究科）・・・・・・・・・・ 3

## 本学取組の概要

報告者

准教授 梅 津 正 美（鳴門教育大学 人文・社会系教育部）・・・・・・・・ 7

## 特色 G P 事例報告

教育実践の省察力をもつ教員養成

- 教育実践力自己開発・評価システムを組み込んだ  
教員養成コア・カリキュラムの展開を通して -

報告者

准教授 梅 津 正 美（鳴門教育大学 人文・社会系教育部）・・・・・・・・ 7

知の総合化ノート・授業実践映像データベース

- 『省察』を支援する2つのシステム -

報告者

准教授 藤 原 伸 彦（鳴門教育大学 基礎・臨床系教育部）・・・・・・・・ 13

## 専門職 G P 事例報告

### 教育の専門職養成のためのコアカリキュラム

- 地域との連携を通して院生の授業力向上をはかる大学院改革 -

報告者

准教授 草 原 和 博 (鳴門教育大学 人文・社会系教育部) . . . . . 2 1

### 教育の専門職養成のためのコアカリキュラム

- 「教育実践フィールド研究」グループ 英語チームの活動報告 -

報告者

准教授 山 森 直 人 (鳴門教育大学 人文・社会系教育部) . . . . . 3 1

## パネルディスカッション

司 会

教 授 村 川 雅 弘 (鳴門教育大学 基礎・臨床系教育部) . . . . . 4 1

パネリスト

准教授 伏 木 久 始 (信州大学 教育学部 臨床教育推進室長) . . . . . 4 3

部 長 清 水 隆 (大阪府教育センター 教育企画部) . . . . . 4 9

教 授 西 園 芳 信 (鳴門教育大学 学長補佐<研究開発担当>) . . . . . 5 5

## 閉 会

主催者代表挨拶

鳴門教育大学 学長補佐 草 下 實 (企画・評価担当)

学位 昭和58年6月 理学博士 大阪大学

現在の研究分野 力学系理論

学会及び社会における主な活動 大阪高等学校数学教育会顧問(平成3年～現在)

**主要研究業績**

The number and linking of periodic solutions of periodic systems, *Inventiones math.*, Vol.70, No.3, 319-340, 単著 (1983)  
Braids of periodic points and a 2-dimensional analogue of Sharkovskii's ordering, *World Sci. Adv. Ser. in Dynamical Systems*, Vol.1, 58-72, 単著 (1986)  
The number and linking of periodic solutions of non-dissipative systems, *J. Diff. Equations*, Vol.76, No.1, 190-201, 単著 (1988)  
The number of periodic points of smooth maps, *Ergod. Th. & Dynam. Sys.*, Vol.9, No.1, 153-163, 単著 (1989)  
The Brouwer representation of the braid group and the Nielsen-Thurston classification, *Contemp. Math*, Vol.152, 229-248, 単著 (1993)  
Braid type of the fixed point set for orientation-preserving embeddings on the disk, *Tokyo J. Math.* Vol.18, No. 2, 457-472, 単著 (1995)  
On the linking structure of periodic orbits for embeddings of the disk, *Math. Japonica*, Vol. 51, No.2, 241-254, 単著 (2000)  
Fixed point index and braid invariant for fixed points of embeddings on the disk, *Topology and its Appl.*, Vol. 122, No.1-2, 337-352, 単著 (2002)  
Periodic points and braid theory, *Handbook of Topological Fixed Point Theory* (eds. R. Brown et.al), Springer pp. 171-216, 単著 (2005)  
The generalized Lefschetz number of homeomorphisms on punctured disks, *J. Math. Soc. Japan*, to appear, 単著 (2009)



開 会

主催者代表挨拶

鳴門教育大学 理事 田 中 雄 三

---

# 基 調 講 演

「教育現場に生きる教育実践力の構想」

## 基調講演

### 教育現場に生きる教育実践力の構想

京都大学 大学院教育学研究科 教授 田中 耕治

---

## 講師 略歴

学 位 昭和55年3月 博士（教育学）京都大学

現在の研究テーマ 教育方法学の立場から「学力と評価の問題」を探究している。そのアプローチとして、おもに三つの方向で研究を展開している。第一は「アメリカにおけるカリキュラム評価研究」、第二は「日本における学力評価研究」、第三は「評価を生かす授業設計と検証」である。「教育評価」に注目するのは、「教え」と「学び」の接点に働く「羅針盤」であり、「教育的認識論」を深化させる方法論であると考えからである。

学会及び社会における主な活動 日本教育学会  
（『教育学研究』編集委員，平成11年～平成12年，現在：常任理事）  
日本教育方法学会（現在：理事）  
日本カリキュラム学会  
（『カリキュラム研究』編集長，平成14年～平成16年，現在：理事）  
教育目標・評価学会（現在：代表理事）

主要研究業績 『ポートフォリオをデザインする』ミネルヴァ書房，監訳（2001）  
『指導要録の改訂と学力問題』三学出版，単著（2002）  
『新しい教育評価の理論と方法』， 巻，日本標準，編著（2002）  
『教育評価の未来を拓く』ミネルヴァ書房，編著（2003）  
『学力と評価の“今”を読み解く』日本標準，単著（2004）  
『新しい時代の教育課程』有斐閣，共著（2005）  
『時代を拓いた教師たち』日本標準，編著（2005）  
『人物で綴る戦後教育評価の歴史』三学出版，編著（2007）  
『新しい学力テストを読み解く PISA/TIMSS/全国学力・学習状況調査/教育課程実施状況調査の分析とその課題』日本標準，編著（2008）  
『教育評価』岩波書店，単著（2008）

(1) 教師教育に関する課題意識

私の歩み - 兵教大, 京大(「E フォーラム全国スクールリーダー育成研修」への参画, 「教育実践コラボレーション・センター」の責任者)

その目標として「研究的実践者」の育成 - 養成教育と現職教育を一貫する目標 -  
「学校で『研究』する方法を教えてほしい」との要請 「教育実践力」の基軸  
Cf. 「研究開発校」の悩み

## (2) 教育を「研究」する立ち位置の模索

大学，大学院での「研究」

「研究のための研究(実践的有効性の欠如)」と「学者の物まね」との批判  
教育現場に生きる「研究」=既存のアカデミズムを乗り越え，対処療法でない理論の構築 「教育実践力」

Cf.ニヒリズムの陥穽 - 「理論に対する不信」と「現場に対する軽蔑」

教育現場での「研究」

「現場」という言葉 「現場」の共有意識と学び合う「研究」の創造  
「研修(教員の資質向上)」と「研究(探究的な営み)」の乖離 「研究なき研修は罔(くら)く，研修なき研究は殆(あやう)い」

### (3) 教育実践力の構想

「洗練(リファイン)」としての「刷新(リニューアル)」

「洗練」 - 磨きをかけること

「刷新」 - 悪いところを改めてまったく新しいものにすること

「授業研究(jugyou kenkyuu)」への着目

長期的・持続的取り組み イベント的取り組み

共同的取り組み 孤立的取り組み

研究的取り組み 研究者の下請け的取り組み

Cf.現場での「言葉」(用語と概念)、「仮説」を構成する意味と方法、「記録」論  
など

大村はまの「学習記録」とポートフォリオ評価をつなぐ「教育実践力」への期待

#### 参考文献

田中耕治編著『時代を拓いた教師たち』日本標準，2005年。

田中耕治編著『カリキュラムをつくる教師の力量形成』教育開発研究所，2006年。

赤井悟監修・大阪府寝屋川市立田井小学校研修委員会編著『高い学力を育む授業研究』  
三学出版，2008年。

田中耕治『教育評価』岩波書店，2008年。

# 事 例 報 告

## 本学取組の概要

## 特色GP事例報告

### 教育実践の省察力をもつ教員養成

- 教育実践力自己開発・評価システムを組み込んだ教員養成コア・カリキュラムの展開を通して -

鳴門教育大学 人文・社会系教育部 准教授 梅津 正美

## 講師 略歴

学 位 平成15年1月 博士（教育学）広島大学

現在の研究分野 社会科教育学

学会及び社会における主な活動 全国社会科教育学会理事(平成8年4月～現在)  
社会系教科教育学会理事(平成14年4月～現在)  
日本社会科教育学会評議員(平成16年4月～平成18年3月)  
日本教育大学協会企画委員(平成20年5月～現在)

主要研究業績 「社会史に基づく歴史内容構成-Project on Social History Curriculumの場合-」全国社会科教育学会編『社会科研究』第33号，pp.45-58，単著（1985）  
「社会史に基づく『世界史』の内容構成-『中世ヨーロッパにおける社会構造と民衆意識』の授業構成-」全国社会科教育学会編『社会科研究』第38号，pp.107-118，単著（1990）  
「マレーシア後期中等教育における『歴史』の研究-マレーシア新中等教育カリキュラム(KBSM)『歴史』を中心として-」全国社会科教育学会編『社会科研究』第41号，pp.39-48，単著（1993）  
「中等歴史教育における地域社会史教授の方法-ミネソタ社会史プロジェクトの場合-」日本社会科教育学会編『社会科教育研究』第72号，pp.16-26，単著（1995）  
「歴史教育における文化理解の学習モデルの構想-POSH:単元『歴史の中の家族』の分析を通して-」日本社会科教育学会編『社会科教育研究』第77号，pp.16-29，単著（1997）  
「社会史に基づく歴史学習論の転回-アメリカ中等教育の場合-」全国社会科教育学会編『社会科研究』第50号，pp.241-250，単著（1999）  
「社会史教授論の展開-中等歴史教育内容改革研究-」日本教科教育学会編『日本教科教育学会誌』第24巻 第1号，pp.21-30，単著（2001）  
全国社会科教育学会編『社会科教育学研究ハンドブック』明治図書，共著（2001）  
社会認識教育学会編『社会科教育のニュー・パースペクティブ-変革と提案-』明治図書，共著（2003）  
社会認識教育学会編『社会認識教育の構造改革』明治図書，共著，（2006）  
「社会科教育実践力育成のための教育実習指導の改善 - 『教育実習到達目標段階表（社会科）』の開発と試行を通して - 」兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科編『教育実践学論集』第7号，pp.71-84，共著（2006）  
『歴史教育内容改革研究 - 社会史教授の論理と展開 - 』風間書房，単著（2006）



# 鳴門教育大学における教員養成コンセプトイメージ

鳴門教育大学(昭和56年開学)

## 教育理念・目標

豊かな教養を培い、総合的に判断できる力量の形成に努めるとともに、子どもに対する愛情と教育に対する使命感を醸成し、教育に関する専門的知識を深め教育実践力を身につけることによって、専門職としての教員を育成する。

今後の国立の教員養成系大学学部の在り方について(報告)  
- 国立の教員養成系大学学部の在り方に関する懇談会 -  
平成13年11月

平成17年度から実施

大学院

・教育課題探求  
・教育実践研究

学部

コア・カリ「鳴門プラン」

平成17年度から実施

長期履修学生制度を利用した  
「学校教員養成プログラム」

力量ある教員の養成  
個性、特色を持った教員の養成  
教員養成カリキュラムの在り方  
体系的・モデル的・創意工夫

新時代の大学院教育

- 国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて - (答申)  
平成17年9月

今後の教員養成・免許制度の在り方について(答申)  
平成18年7月

## 社会的使命(ミッション)

教育実践に関する、ならびに教育実践に資する理論的、実証的研究を展開しつつ、その成果をもとに、確かな専門的知識に裏打ちされた、高度の実践力をもった教員を養成し、それを通して、わが国の学校教育の質と水準の向上に寄与する。

高度な専門性、実践力を備えた  
特色ある教員の養成

教職共通科目群  
広領域コア科目  
教育実践フィールド研究

幅広い視点からの問題分析力・対応力  
解決力と、指導力をもつ教員の養成  
【専門職学位課程 = 教職大学院】  
スクールリーダー  
実践的対応力に優れた新人教員


特定の教科領域等における専門性を有し、  
得意分野で優れた実践を展開できる  
教員の養成 【修士課程】  
教科領域等のエキスパート/  
スペシャリスト



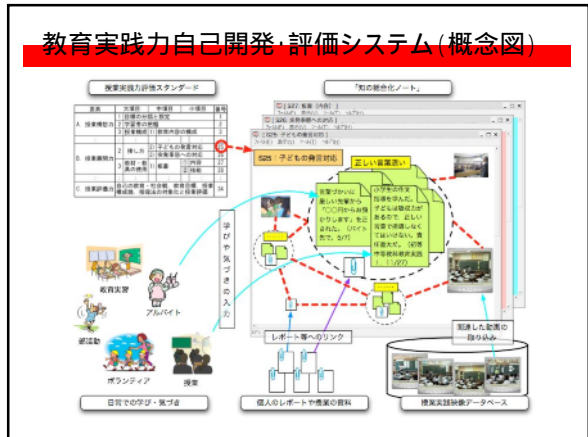
鳴門教育大学 特色GP・専門職GPシンポジウム(2008年12月13日)

## 教育実践の省察力をもつ教員養成

- 教育実践力自己開発・評価システムを組み込んだ  
教員養成コア・カリキュラムの展開を通して -



鳴門教育大学  
梅津 正美



### 学士課程 教員養成教育改革の全体像

- 目標
  - 教育実践の省察力育成
- 取組の内容
  1. 教育実践学を中核とした教員養成コア・カリキュラム
  2. 授業実践力評価スタンダード
  3. 知の総合化ノート
  4. 授業実践映像データベース

教育実践力自己開発・評価システムの構築

### 学生の学びの過程

- 第1コア科目
  - 「知の総合化ノート」と「授業実践映像データベース」についての講義・実習
- 第2コア科目
  - 「初等中等教科教育実践」の授業を、「評価スタンダード」についての理解をもとに、PDCAの研修サイクルにより展開
  - 「評価スタンダード」をもとにした授業力の評価項目別ファイルの作成
  - 授業で学んだことや経験したことの「知の総合化ノート」による構造化
  - ▶ 4年にわたるコア領域の諸科目や大学内外での諸活動の「知の総合化」による、教育実践力のスパイラルな成長

### 授業実践力評価スタンダード

教育評価および自己評価の段階指標

要素・項目	段階	段階 1	段階 2	段階 3
A. 授業構想力	1. 学習者の把握	学習者の社会科の既習内容を理解し、それを授業づくりに活かそうとしている。	個々の学習者の実態(学習意欲、リーダーシップ、理解度、興味・関心、社会認識の傾向や社会意識の発達段階など)を把握し、指導上配慮することを留意事項として具体的に挙げている。	・クラス全体や個々の学習者に適した学習方法や教材を考慮し、授業構成の検討に活かしている。 ・学習者が生活する地域社会の特色、地域の抱えている問題などを把握し、授業構成に活かしている。
	B. 授業展開力	1. 基礎的・基本的な授業(音声・表		

### 実践事例:「初等中等教科教育実践 (社会)」

平成19年度後期

1. 教科内容研究: 歴史学研究成果をふまえて
2. 「評価スタンダード」の内容構成の論理について講義
3. 「評価スタンダード」の段階内容の意味理解: 「教育実習生授業」と「講義担当者(梅津)授業」の分析・評価を通じて第1段階・第2段階の評価内容をつかむ  
「授業実践の省察の時間」(1)
4. 現職教員の授業構成と展開の実践知に学ぶ
5. 「評価スタンダード」にもとづくマイクロティーチングの実践と評価  
授業における説明(話法) 資料・教材の加工と活用  
問いの構成 板書の内容と技法  
「授業実践の省察の時間」(2)

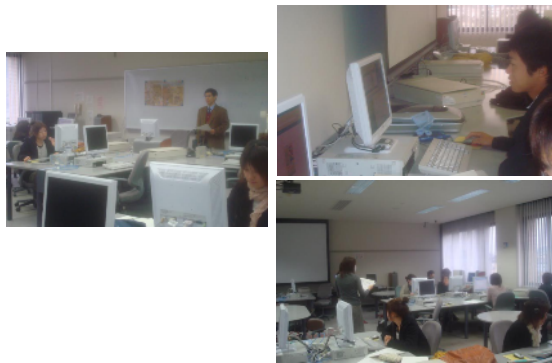
## 段階内容に応じた授業実践



## マイクロティーチング(説明)



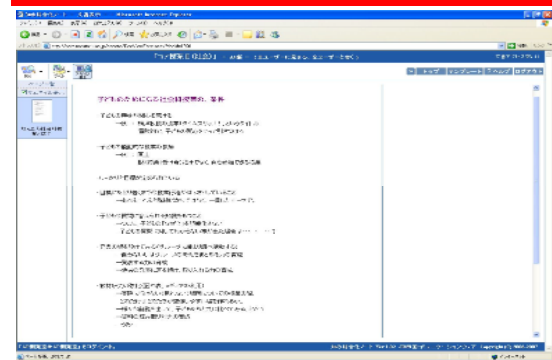
## 「授業実践の省察の時間」(1)



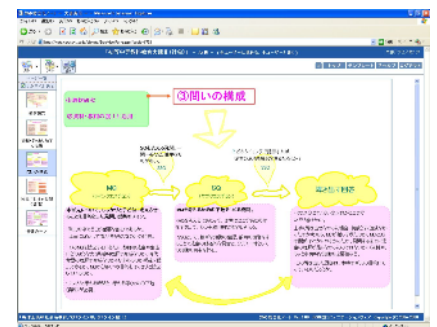
## マイクロティーチング(板書の仕方)



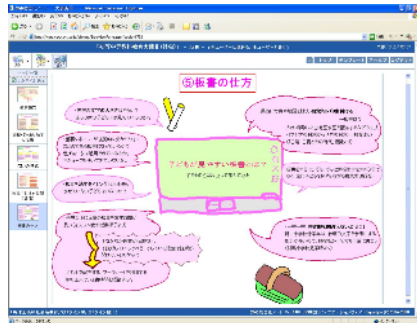
## 知の総合化ノート: 事例



## 知の総合化ノート: 問いの構成



## 知の総合化ノート:板書の仕方



## 取組の意義と今後の課題

### 意義

1. 学生が、カリキュラムにおける多様な学びを総合し、授業力をコアとする教育実践力に結びつけることができる。
2. 学生が、ともに学び合う環境で自らの人間的成長を促し、他者との関わりを築ける能力を育成できる。
3. 大学教員が、学生の学びの履歴と教育実践力の到達度をつかむことを通して、自らの授業実践と学士課程教育の改革課題を明確にできる。

### 今後の課題

「評価スタンダード」(=評価規準)と作業課題及び評価基準とをむすびつけ体系化することにより、学生の出口評価の方法を具体化していくこと。

## 特色GP事例報告

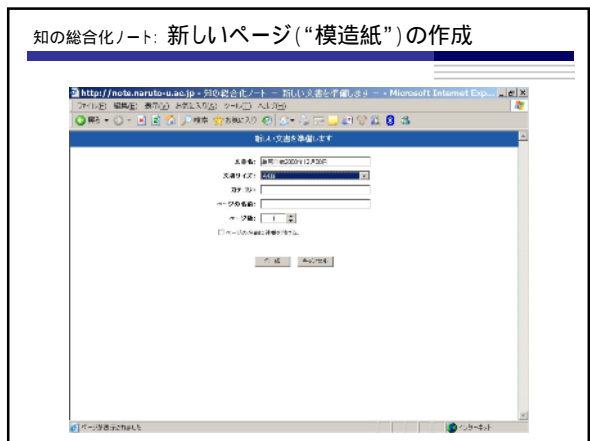
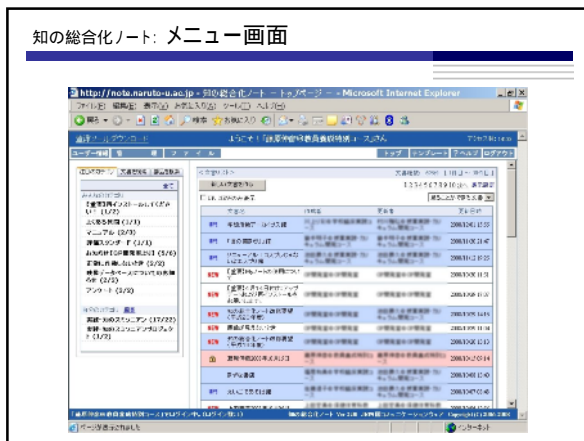
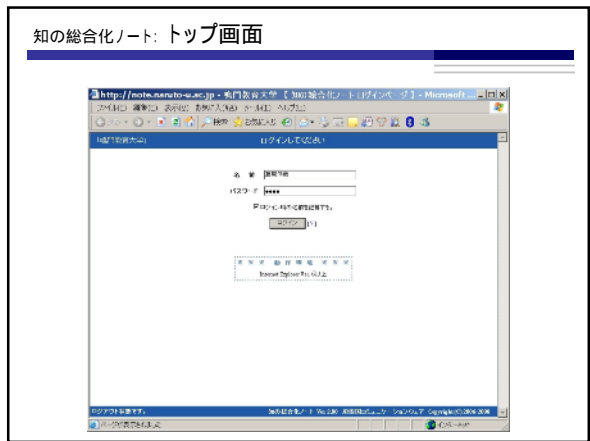
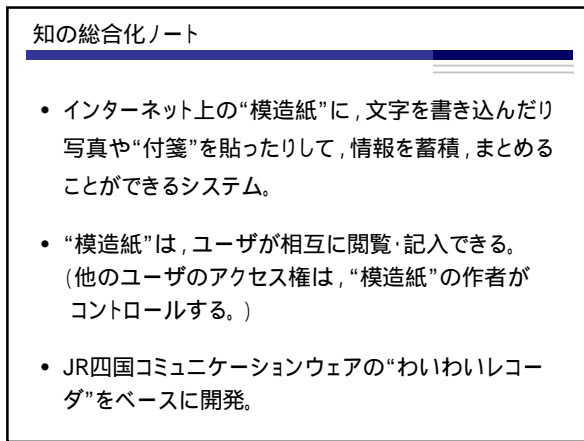
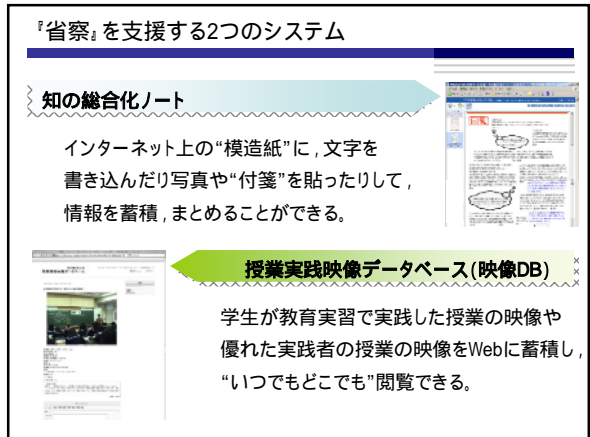
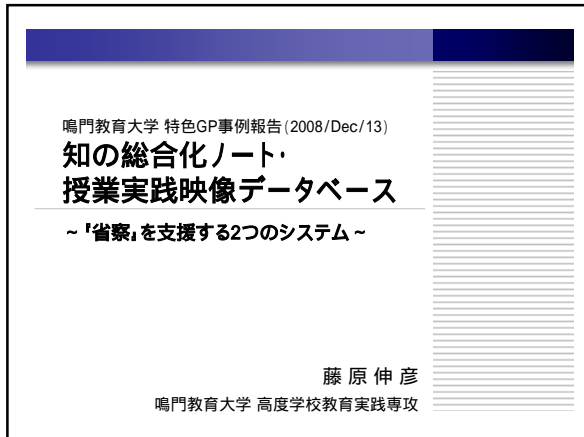
### 知の総合化ノート・授業実践映像データベース

- 『省察』を支援する2つのシステム -

鳴門教育大学 基礎・臨床系教育部 准教授 藤原伸彦

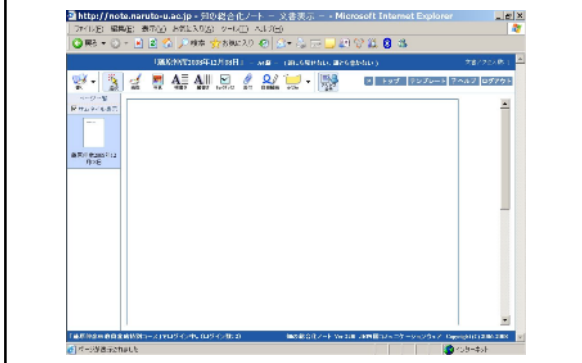
## 報告者 略歴

学 位	平成10年3月 博士（人間科学）大阪大学
現在の研究分野	認知心理学，教育工学
学会及び社会における主な活動	教育システム情報学会誌編集委員（平成17年10月～現在）
主要研究業績	<p>「学部生の授業実践力を育成するためのデジタルコンテンツ開発」 『鳴門教育大学情報教育ジャーナル』第4号，pp.65-71，共著 （2007）</p> <p>Web Video Archive System for Facilitating Pre-service Teacher Reflective Learning of Teaching Practices. Proceedings of E-Learn 2007: World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, &amp; Higher Education (October 15-19, 2007, Quebec City, Canada), pp.7108-7111，共著（2007）</p> <p>Development of Web Video Archive System for Pre-service Teacher Training with Content Management System. Proceedings for E-Learn 2006 - World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Hawaii, USA, October 13-17, 2006. 単著（2006）</p> <p>「遠隔授業観察システム活用の類型，ノウハウ，システム改良に向けての提案」『鳴門教育大学情報教育ジャーナル』第3号，pp.95-100，共著（2006）</p> <p>「インターネットコミュニケーションツールPOCを利用した国際コミュニケーション実践」『鳴門教育大学地域連携センター紀要』第20号，pp.147-151，共著（2005）</p> <p>「小中学校における表現・コミュニケーションスキルの育成を目指したICTの活用～『デジ芝居』実践報告～」『鳴門教育大学情報教育ジャーナル』第2号，pp.57-63，共著（2004）</p> <p>「教育用Webサイト構築におけるコンテンツ・マネジメント・システム（CMS）の利用」『鳴門教育大学学校教育実践センター紀要』第19号，pp.173-176，共著（2004）</p> <p>Patterns of searching for information on the World Wide Web: A pilot study. Psychological Reports, 92, pp.1091-1096，共著（2003）</p> <p>「コラボレーションネットワークのアクセスログ解析～アクセスログの解析結果を支援の改善に活かすには？～」『鳴門教育大学学校教育実践センター紀要』第18号，pp.259-264，共著（2003）</p> <p>「学習者のパーソナリティ特性によるコミュニケーションメディア選好の差異」教育システム情報学会『教育システム情報学会誌』Vol.20 No.2 2003，pp.95-105，共著（2003）</p> <p>Does turn-taking behaviour in a dialogue facilitate idea generation in learning? International Journal of Learning, 9, pp.1215-1220，共著（2002）</p> <p>Student's personality traits and effectiveness of computer-mediated communication in learning. In B. Cope and M. Kalantzis (eds.), Learning for the Future: Proceedings of the Learning Conference 2001，共著（2002）</p>

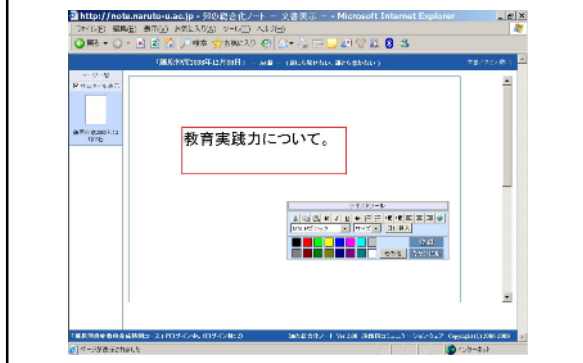




知の総合化ノート：新しいページ（“模造紙”）



知の総合化ノート：ページ（“模造紙”）に文字を書き込む

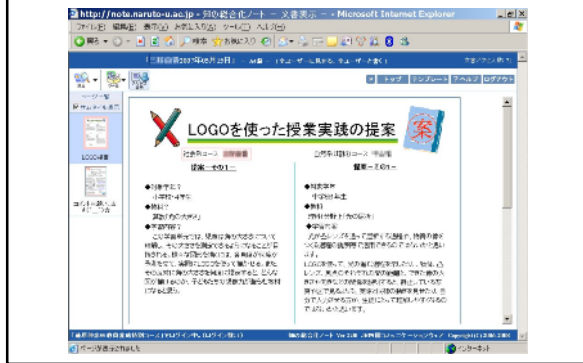


知の総合化ノート：活用事例

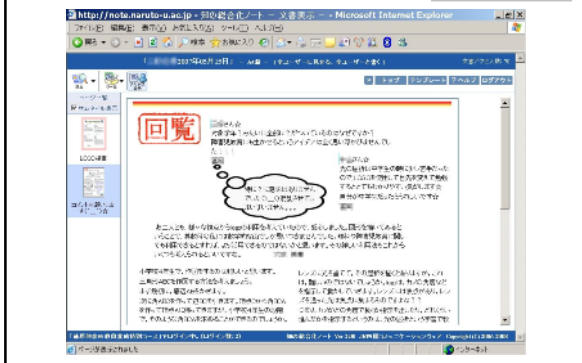
講義名：  
「マルチメディアと教育技術」(対象:学2～4年)

課題：  
「LOGOやSQUEAKといったソフトを使った授業案を考えなさい。」

知の総合化ノート：学生が作成したページ



知の総合化ノート：学生同士のインタラクション



知の総合化ノート：学生による評価

おおむね、高評価。

- 「自分の考えを他人に知ってもらえる点、客観的な意見が聞ける点などがとてもよいと思いました。また、パソコンがあって、インターネットが繋がっている場所であればどこでも使えるという点も便利だと思いました。」
- 「自分の体験をまとめて関連付けたり、いろんな人と共有しあうことはすごく生きる力につながっていくような気がします。いろんなことを経験して感じることは教師になる上でも必要なことです。せっかくいい経験をしたのに忘れてしまってもったいないですね。普段何気なく感じることも、気軽に書き込めるのが利点だと思います。」
- 「...ですが、気をつけなければならないこともあります。例えば、他人の意見を取り入れすぎて自分自身の意見がなくなったり、他人の意見に頼ってしまったりすることです。このあたりを気をつければ知の総合化ノートは教育にも活用できると思います。」



## 授業実践映像データベース(映像DB)

- 学生が教育実習で実践した授業の映像や優れた実践者の授業の映像をWebに蓄積し、“いつでもどこでも”閲覧できるシステム。
- コンテンツ数(2008年12月1日現在): **268本**
- コメント機能を介しての学びあい。
- いわゆる『フリー』のシステムで構築。

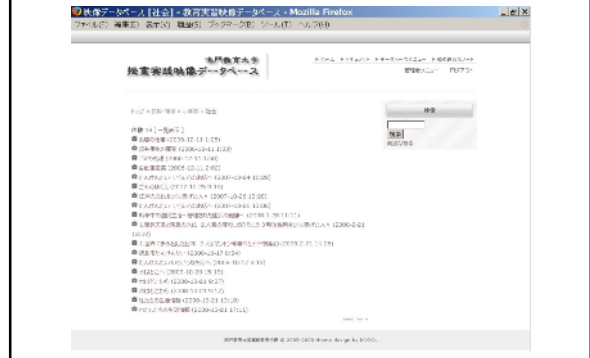
## 映像DB: トップ画面



## 映像DB: メニュー画面



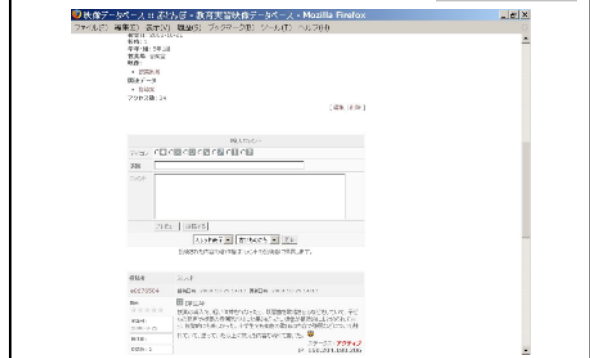
## 映像DB: メニュー画面(コンテンツリスト)



## 映像DB: コンテンツ閲覧画面



## 映像DB: コメント機能



### 映像DB: コメント機能



### 映像DB: プライバシーの保護について

- 大学のネットワークに接続されたPCからのみアクセス可。
- 映像の閲覧にはID・パスワードが必要。
- 映像はダウンロードできない。
- 学生に許諾を求めた上で撮影。
- 園児・児童・生徒の顔がなるべく映らないように配慮。顔がはっきりと認識できるものに関しては編集。

### 映像DB: 「教育実習事前事後指導」における活用事例

- 2007年度 学部3年生  
9月 教育実習 ... 評価授業撮影
- 2008年度 学部3年生  
7月 事前指導  
【課題】2007年度学部3年生の映像を閲覧  
→ 知の総合化ノートへコメント
- 9月 教育実習 ... 評価授業撮影  
10月8日 事後指導  
→ アンケート(1)
- 10~12月 事後指導(コースごと)で実践の省察  
【課題】自身の映像と他の学生の映像を閲覧  
→ アンケート(2)

### 映像DB: 学生による評価

- アンケート(1) ... 非常に高評価
- 「実習の様子が分かってよかった。」
  - 「配属学年と同じ学年の先輩方の実際の授業の様子を見ることができたので、非常に参考になった。発問の仕方、時間配分等、焦点を絞り、映像を見ることで、自分自身の細案に活かすことができた。」
  - 「映像データベースの使い方を知ることができたので、実習中何度も実践を見て子どもの反応を予想することができた。」
- アンケート(2) ... 現在、回収中
- 「自分の実践を振り返ることができてよかった。」
  - 「1年の時点から使えるようになっているとよかった。」

### 今後の展開

- [全体]
- 4年間のカリキュラムを通してのシステム活用の本格化。
  - 評価スタンダード、知の総合化ノート、映像DBのさらなる連携。
- [知の総合化ノート]
- 講義や実習における新たな活用方法の模索。
- [映像DB]
- 講義や実習における新たな活用方法の模索。
  - コンテンツの拡充。

(注) プライバシー保護のため、画像処理を施し、一部の情報は伏字にしています。

# 教員養成における「知の総合化ノート」の開発

## Development of “Digital Note for Knowledge Integrating” at Teacher Training

村川 雅弘 藤原 伸彦

Masahiro MURAKAWA Nobuhiko FUJIHARA

鳴門教育大学

NARUTO UNIVERSITY OF EDUCATION

〈あらまし〉 鳴門教育大学では教育実践省察力の高い学生の育成を目指し、平成 17 年度より「教員養成コア・カリキュラム」を展開しつつ、各自が自己の授業実践力を常に確認するための「評価スタンダード」、モデル授業や自己の授業を随時視聴できる映像データベース、そして、学生一人一人が様々な学びを整理・構造化するための「知の総合化ノート」の開発・実施を行っている。本ノートのシステムおよびその活用状況と課題について報告する。

〈キーワード〉 知の総合化、教師教育、授業実践、映像データベース、評価スタンダード

### 1. はじめに

中央教育審議会は平成 17 年 10 月に『新しい時代の義務教育を創造する』を発表した。その中で、望むべき義務教育の姿として、「学校力」を強め「教師力」を高めて子どもたちの「人間力」を豊かに育てることを改革目標として掲げている。そして、豊かな「人間力」を育むことのできる優れた教師の条件として「教職に対する強い情熱」「教育の専門家としての確かな力量」「総合的な人間力」を挙げている。昨今の学校教育を取り巻く社会の要請および関心の高さを反映し、全国の教員養成系大学・学部の養成教育および現職教員研修において、教育実践力を備えた教員の育成は急務の課題となっている。

鳴門教育大学においても、17 年度より教育実践学を中核としたコア・カリキュラムを展開し、4 年間の各段階において常に授業を観察・分析し、構想・実践・評価していくことを通して、理論知と実践知を統合させつつ教育実践力をスパイラルに形成・成長させている。また、教育実践力の中核的な資質能力として、授業実践力、子ども理解力および学級経営力を、基盤的資質能力として対人関係能力、教職に対する意欲・使命感とし、授業実践力に関しては 3 段階の到達目標からなる「評価スタンダード」を各教科および通教科で開発してきた。さらに、学生自身や附属校園教員の授業映像や学習指導案・教材等の関

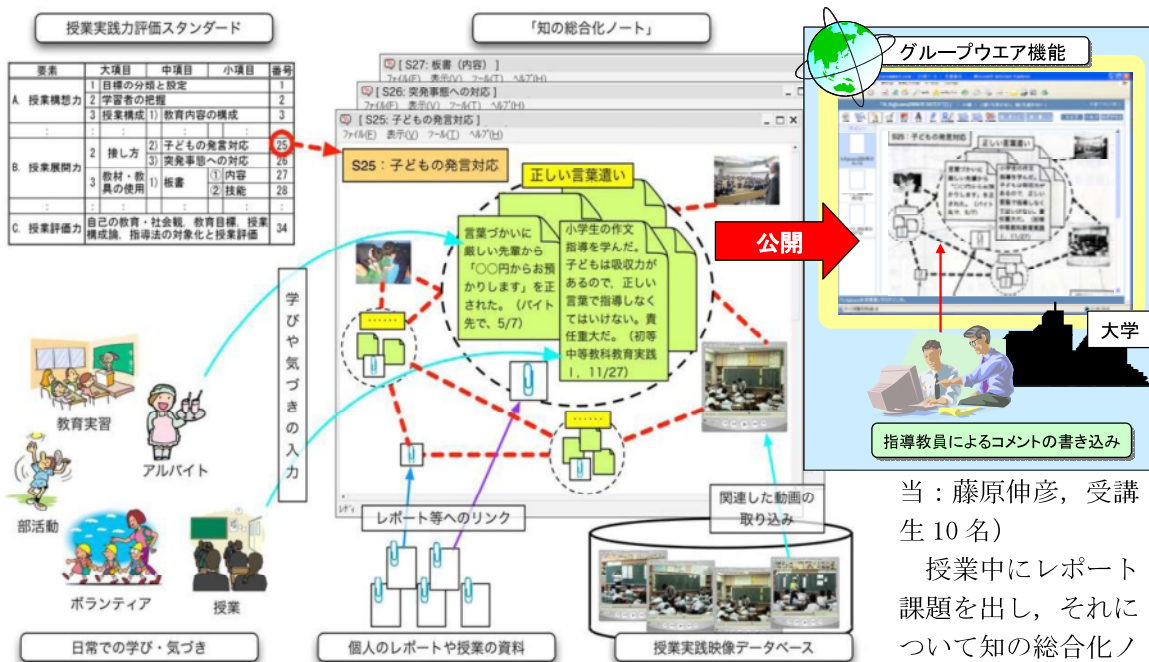
連資料を随時閲覧できる「映像データベース」を稼働させている。

コア・カリキュラムにおける確かな学習だけでなく、学生個々の部活動やボランティア活動、アルバイトなどにおける豊かな学びが実は教師となる上で重要である。評価スタンダードや映像データベースにより、常に自己の教育実践力を評価し、新たな課題を設定する一方で、その課題に応じて、大学の各授業や教育実習、個々の部活動やボランティア活動、アルバイトなどにおける様々な学びを整理・構造化していくためのツールとして「知の総合化ノート」を開発している。

### 2. 「知の総合化ノート」のシステム

「知の総合化ノート」の原型は阿波市立吉野中学校の「仲吉ノート」である。三橋和博(2005)が教科や道徳、特別活動、総合的な学習、生活場面における様々な学びを生徒一人一人に関連付けさせるために開発した<sup>1)</sup>。様々な学びを紙の小片に書き留めて、テーマごとに整理・構造化を図る。鳴門教育大学では「教育課程論」の授業において試行し、学生より高い評価を受けた。

平成 18 年度において「特色ある大学教育支援プログラム」に取組名称「教育実践の省察力をもつ教員養成-教育実践力自己開発・評価システムを組み込んだ教育養成コア・カリキュラムの展開を通して-」が採択されたことにより、「評価スタンダード」と「映像データバ



ース」を有機的に繋げるものとして、デジタルベースで「知的総合化ノート」を開発した。

評価スタンダードや映像データベースにより自己の授業実践力を省察し自己課題を設定しつつ、その課題に応じてページを作成する。その各ページに授業や教育実習、その他の様々な学びを整理・構造化していくものである。そして、そのページを Web 登録することで指定した学生や教員に見せたり、コメントを得たり、あるいは協同的にノートづくりを行うことができる。

### 3. 「知的総合化ノート」の活用

平成 19 年度は、講習会を実施し学部生全員および院生の一部において利用できる状況にある。支援体制として、マニュアルの作成・配付、「GP 開発室」担当者による対応、FAQ の Web 発信等を行っている。アンケートや日常的な問い合わせにより、システム改善を図っている。活用状況をいくつか紹介する。

①学部「教育課程論」(担当:村川雅弘, 受講生 137 名)

各自に「教職をめざすものとして身につけたい力量」を 3 つ挙げさせ、そのページを作成させ、授業等での様々な学びを整理・構造化させた。中間レポートにおいては、その内の一つを Web 登録させた。

②学部「マルチメディアと教育技術」(担

当:藤原伸彦, 受講生 10 名)

授業中にレポート課題を出し、それについて知的総合化ノートに各自がまとめさせることで、使い方の定着を図った。それ以外に、例えば以下のような使い方を試みた。

③大学院「総合学習カリキュラム開発特論」(担当:村川雅弘, 受講生 16 名)

総合的な学習のカリキュラムづくりに関して、開発の 3 タイプで 3 つのチームを形成し、ネットワークを介してノートづくりを行った。その後、協同的に作成したノートを基盤に各自がその後の学びを整理・構造化した。

評価結果については当日報告する。

### 4. 「知的総合化ノート」の課題

①ノートづくりの日常化・習慣化のための授業等における全学的な場づくりと環境整備。

②ノートの記述内容の充実化のためのノートに対する教員の指導のあり方。

③ノートの有効性の理解促進のための教育実習等における授業づくりや実践におけるノート活用等の場づくり。

1) 三橋和博 (2005) 「子どもの「知的総合ノート」から教科関連を考える」, 村川雅弘編著『授業にいかす 教師がいきる ワークショップ型研修のすすめ』ぎょうせい pp.96-104

*M E M O*

---

## 専門職 G P 事例報告

### 教育の専門職養成のためのコアカリキュラム

- 地域との連携を通して院生の授業力向上をはかる大学院改革 -

鳴門教育大学 人文・社会系教育部 准教授 草原 和 博

---

### 報告者 略歴

学 位 平成14年11月 博士（教育学）広島大学

現在の研究分野 社会科教育学，地理教育

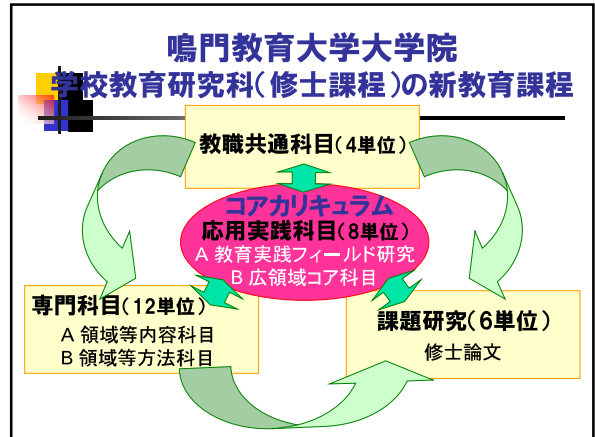
学会及び社会における主な活動 全国社会科教育学会理事(平成11年～現在)  
社会系教科教育学会理事(平成9年～現在)  
韓国地理環境教育学会編集委員(平成17年～現在)

主要研究業績 『地理教育内容編成論研究 - 社会科地理の成立根拠 - 』風間書房，  
単著（2004）  
「グローバル問題の地理的探求:GIGIの性格 - 社会工学科としての地理教育 - 」日本社会科教育学会 『社会科教育研究』第85号，単著  
（2001）  
「地誌教授による態度形成の論理 - P.E. ジェームスの地理教育論を手がかりにして - 」日本地理教育学会 『新地理』第48巻4号，単著  
（2001）  
「市民社会における地理教育 - テキサス社会科と『世界文化地理』を手がかりにして - 」中央教育研究所 『中研紀要 教科書フォーラム』  
第4号，単著（2005）  
「地理教育の社会化 - わが国の地理教育変革論の体系と課題 - 」社会系教科教育学会 『社会系教科教育学研究』第18号，単著（2006）  
「地理教育の公民教育化 - 地域を単位とした総合的な社会研究 - 」全国社会科教育学会 『社会科研究』第66号，単著（2007）

鳴門教育大学 特色GP・専門職GPシンポジウム

専門職GP事例報告(1)  
**教育の専門職養成のための  
 コアカリキュラム**  
 —地域との連携を通して院生の授業力向上をはかる大学院改革—

国立大学法人  
**鳴門教育大学**  
 人文・社会系教育部 草原和博



1 「教育実践フィールド研究」  
 の誕生の背景

【課題1】  
 教職大学院が開設されるなか、既設大学院の機能をいかに活性化するか？

なぜなら本学「学校教育研究科」の主たる構成員は、依然として既設大学院の院生だから

- 既設(人間教育,特別支援教育,教科・領域教育)...250名
- 新設(高度学校教育実践専攻)...50名

既設大学院における「教育の専門職」養成の位置づけ、目的とは？

【課題2】  
 学問・芸術の専門的知見と教育現場の課題を架橋する教育をいかにして実現するか？

- 旧「教育実践研究」でのテーマ乱立化の傾向
- 院生の学び・経験の質にも差が目立ってきた
- これら実践的科目と専門科目の連携が弱い

カリキュラムの構造はどのようにあるべきか？  
 いかに改善するとよいのか？

【課題3】  
 院生のキャリア・問題関心・能力の多様化に  
 いかに対応するか？

- 教員免許をもたない教員養成プログラム院生
- 教員免許をもつ学卒院生(教育実習の経験のみ)
- 教員経験豊かな現職員生,の混成が一層進む

「高度な実践力」と「基礎的な実践力」を  
 いかに一体的に育成するか？

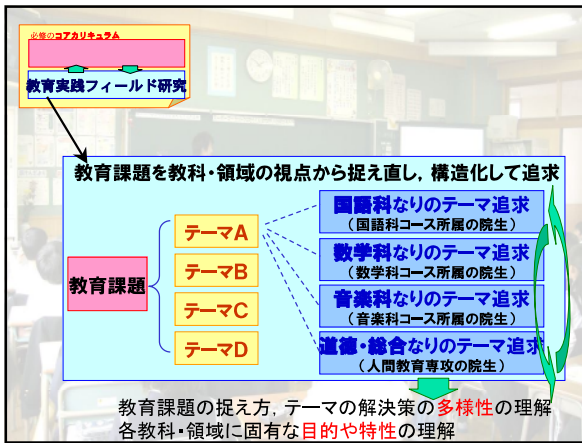
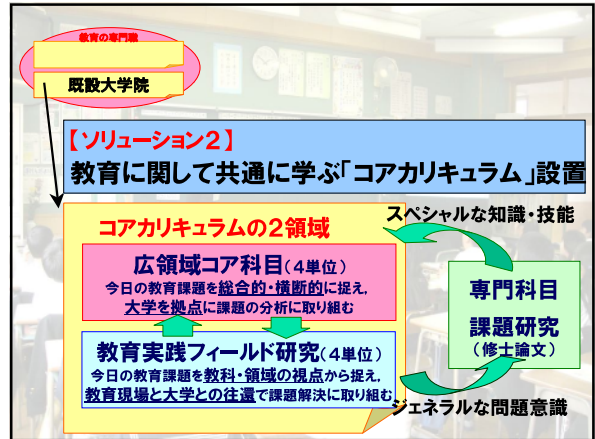
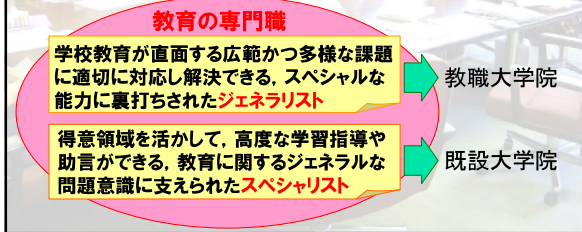
新科目の開講

【課題1:目的】 既設大学院における「教育の専門職」養成の目的とは？	【ソリューション1】 ?
【課題2:内容】 カリキュラムの構造は、どのようにあるべきか？	【ソリューション2】 ?
【課題3:方法】 高度な実践力と基礎的な実践力をいかにして養うか？	【ソリューション3】 ?



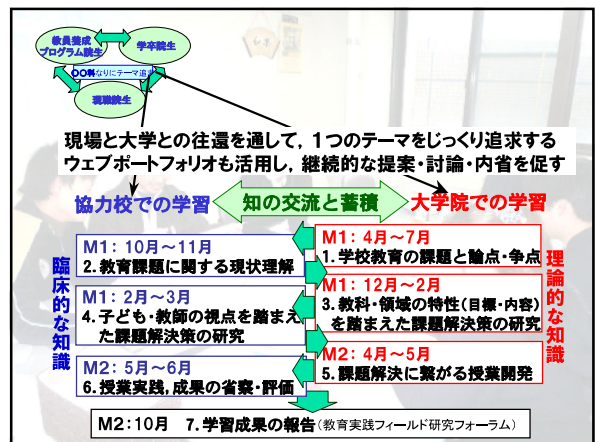
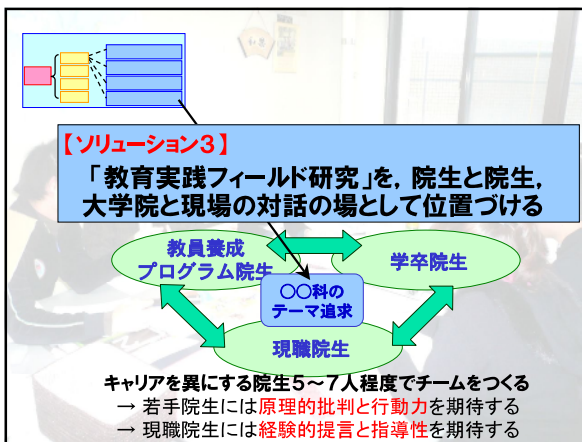
## 2 「教育実践フィールド研究」の目的・内容・方法

【ソリューション1】  
「教育の専門職」養成における2つのアプローチ



「教育実践フィールド研究」における教育課題の構造化のイメージ

教育課題	課題に基づくテーマ	院生チーム	テーマに対するアプローチ例	教科・領域
領域1: 子どもの心と成長	他者を思いやる心を育てる	人間形成	優しさとは何か	道徳
		国語	古典に描かれた人の生き方	教科(国語)
		社会	社会福祉の思想と現実	教科(地歴)
	子どもの社会化を支援する	技術・工業・情報	情報の受け取りと発信のためのリタラシー	教科(技術)
		臨床心理士養成	大人になるとは	道徳
		幼年発達支援	自分にできること、できないこと	教科(生活)
		現代教育課題総合	ルールって何だろう	総合
		家庭	家族の支え、家族の形	教科(家庭)







教育実践フィールド研究

**【課題1:目的】**  
既設大学院における「教育の専門職」養成の目的とは？

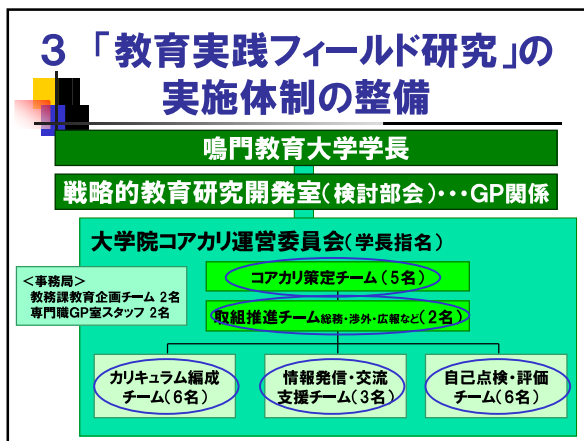
**【課題2:内容】**  
カリキュラムの構造は、どのようなものがあるべきか？

**【課題3:方法】**  
高度な実践力と基礎的な実践力をいかにして養うか？

**【ソリューション1】**  
教育に関するジェネラルな問題意識をたずさえたスペシャリストの養成

**【ソリューション2】**  
「教育実践フィールド研究」を通じて、教育課題に構造的・多元的にアプローチ

**【ソリューション3】**  
大学教員+キャリア混成の院生チーム+協力校教員による協働研究プロジェクト



### 4 平成19年度の試行プログラム

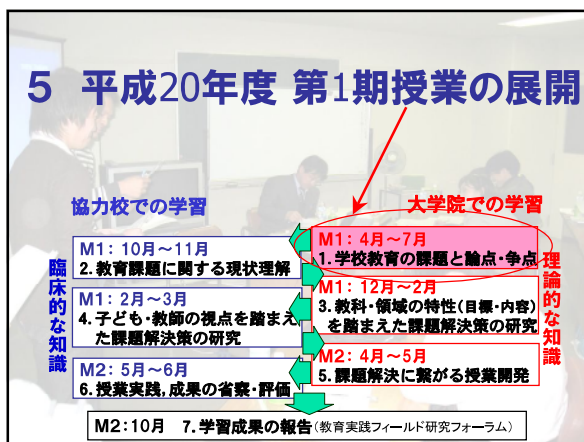
今年度より「教育実践フィールド研究」を立ち上げるために、昨年度の「教育実践研究」から4チームを選んで、試行的な取組を行った

Aチーム ①教師の協働力 ②課題の分析力 の指導法  
「主体的に社会認識を形成する社会科学習の展開と構想」

Bチーム ③授業の開発力 ④実践の省察力 の指導法  
「社会認識形成を支援する映像メディア教材の開発と試行」

Cチーム ④実践の省察力 ①教師の協働力 の指導法  
「目標・指導・評価の一体化をはかった英語授業」

Dチーム ③授業の開発力 ④実践の省察力 の指導法  
「音楽によるコミュニケーション成立をめざした授業の工夫」



第1講: 試行A・Bチームが取り組んだ教育課題と研究成果

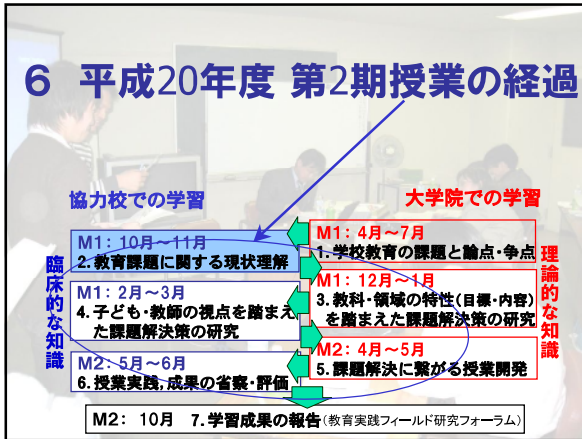
第2講: 試行C・Dチームが取り組んだ教育課題と研究成果

第3講: 「教育の専門職」に求められる資質・能力

第4講: 各個別のコース(教科・領域)の指導に求められる「教育の専門職」としての資質・能力

第5講: 特別講演会  
世界各国(米・国・フィンランド)が直面する教育課題と学校や教師の責任、ならびに「教育の専門職」に求められる資質・能力を理解する

## 6 平成20年度 第2期授業の経過



教育課題	テーマ・作業課題	コース	テーマに対する各教科・領域のアプローチ
グループⅠ 表現・こころ・コミュニケーション	コミュニケーション過程に着目した学習指導の研究	国語 音楽 美術 英語 数学 体育 家庭	中学生への絵本の読み聞かせを通して、生徒相互、教師と生徒の信頼関係を育て、学力を向上させる工夫 音楽によるコミュニケーションの成立をめざした授業づくりの工夫 表現意欲を促す鑑賞教材について 国際化社会における多文化共生 数学と実生活とのつながり 専門の海を体感する星洲体験活動
グループⅡ 社会・地域・くらし	学びを社会や暮らしにどう生かすか	社会 数学 音楽 美術	中学校家庭科における体系的学習活動を中心とした教材開発 社会の見方・考え方を育てる授業・教材づくり 数学に対する興味・関心を高める教材づくり 文化としての理解をめざした音楽鑑賞の工夫 富貴層級の教材開発
グループⅢ 教材研究・教材づくり	各教科の特性・目標を踏まえて、子どもの興味・関心を引き出す教材を作成しよう	英語 社会 体育 技・工・情	「ひきつける、力をつける」教材・教具の開発、利用、工夫を考える 小学校における「英語/ノート」(紙作版)に基づいた外国語活動の授業実践:「英語/ノート」の実用可能性と課題 GISを活用した地理授業 中学校における武道の実技指導について 教材の印刷加工を利用した独創的な本製品の製作
グループⅣ 教材・教具の活用	「ひきつける、力をつける」教材・教具の開発、利用、工夫を考える	国語 英語 社会 体育	メディアリテラシーを育てる中学校道徳科指導 高等学校における英語ライティング指導の改善 中学校英語授業のプラス1時間にとの対応するか 思考力を培う地理歴史科の授業開発 中学校体育授業でいかにコーディネーション能力育成を取り入れ、高めるか?
グループⅤ 指導法・能力開発	教科のリテラシーをどうつかうか、教材・指導法の開発に活かすか		

**第6講: ガイダンス**  
 ① Webポートフォリオの使い方, 意義の理解  
 ② グループの作業課題の具体化

**第7講: 授業開始**  
 ① 研究課題を共有する5つのグループを設定  
 ② 1つのグループを、異なる教科・領域を母体とする4つの院生チームで構成

チーム単位の個別授業(メイン)と  
 グループ単位の合同授業(サブ)を繰り返す

各グループ・チームの進捗状況は  
 下のウェブページをご覧ください。  
<http://www.naruto-u.ac.jp/gp/senmon/>

資料1 旧カリキュラム「教育実践研究」のテーマ一覧

専攻・コース	研究課題名	協力学校等
人間形成	特活（健康教育） 小学校における心の健康教育のあり方	附属小学校
	抑うつ気分を訴える生徒を対象としたポジティブ感情とポジティブ・コーピングを主要操作因子とした健康・適応への導き	徳島北高等学校
	徳島県民俗研究と教材化の試み	埋蔵文化財センター
学校改善	事務室長をリーダーとした事務のグループ化による学校運営システムの構築	事務職員研究会
授業開発	生活科（生活学習）の活動における子どもの行動観察やその分析と考察	附属小学校
生徒指導	道徳 道徳学習における評価について	附属小学校
臨床心理士養成	不登校生徒への訪問型支援に関する教育実践研究	総合教育センター 徳島市教育研究所
幼年発達支援	保育の質を問う - 遊誘財が促す幼児期における体験の多様性と関連性 -	附属幼稚園
	幼少連携の教育プログラム開発	附属幼稚園
	特別支援を必要とする幼児の集団生活適応について	精華幼稚園
総合学習開発	地域素材を生かした総合的な学習の単元開発と表現・発信方法の研究	林崎小学校
	日本語支援が必要な児童のための教材開発と学校運営	石浜西小学校
特別支援教育	現場実習における実習先での行動の記録	附属特別支援学校
	現場実習での課題に視点をあてた日常生活指導	附属特別支援学校
	生徒の実態把握のアセスメント（発達検査等）K-ABC, PEP-R, WISC-III, MEPA 等	附属特別支援学校
	生徒への日常生活指導（観察と記録）	附属特別支援学校
	授業研究（生活単元学習, 自立活動等）	附属特別支援学校
	日常生活の指導に関する研究	附属特別支援学校
	特別支援教育の推進について（障害児教育講座）	桑島小学校
	通常学級に在籍する軽度発達障害児への支援のあり方について	新町小学校
	知的障害及び肢体不自由のある児童に対する効果的な日常生活・学習指導	林崎小学校
特別支援学級（自閉症児への支援）	北島南小学校	
言語系(国語)	国語科 国語科単元学習の発想を導入した授業の創造	附属小学校
	国語科 語彙指導（言語・文法等）	附属中学校
	伝え合う力の育成をめざして	黒崎小学校
言語系(英語)	英語科 小学校英語活動の構想と展開	附属小学校
	英語科 目標・指導・評価の一体化を図った英語授業	附属中学校
	高校生における効果的なライティング指導	鳴門高等学校
社会系	社会科 主体的に社会認識を形成する社会科学習の展開と構想	附属小学校
	社会科 G I S を活用した社会科授業の開発研究	附属中学校
	社会認識形成を支援する映像メディア教材の開発と試行	津田・木岐・寺内小
自然系(数学)	算数科 数学的な考え方を高める算数科授業の構想と展開	附属小学校
	数学 数学的活動の楽しさが実感できる教材開発と授業実践	附属中学校
自然系(理科)	理科 植物細胞の観察の工夫	附属中学校
芸術系(音楽)	音楽科 子どもの発達段階に応じた歌唱指導のあり方	附属小学校
	音楽によるコミュニケーションの成立をめざした音楽授業の工夫	附属小学校
芸術系(美術)	図工科 造形表現を豊かに育む授業の構想と展開	附属小学校
	美術科 美術鑑賞学習	附属中学校
生活・健康系 (保健体育)	体育科 体育学習における情報機器の効果的活用について	附属小学校
	アウトドア・スポーツ「水辺運動」	城北高等学校
	スポーツイベントの企画・運営	バスケットボール協会
生活・健康系 (技術・工業・情報)	技術科 ロボット製作を通じたものづくり指導	附属中学校
	技術科 曲げ木を用いた作品製作指導	附属中学校
生活・健康系 (家庭)	家庭科 技術力を伸ばす調理実習の工夫 一人ひとりのよさや個性を生かした実践的・体験的な学習活動の展開	附属中学校 佐古小学校

青の色掛け部は、専門職 GP の「試行プロプログラム」

## 資料2 平成 20 年度「教育実践フィールド研究」モデル・シラバス

### 0 オリエンテーション(4月)

- 1 今日の学校教育の課題とそれをめぐる論点・争点(4月~7月, 5回分)
  - (1) 前年度「教育実践研究」の成果の発表, その意義の解説(1) ... **全学**
  - (2) 前年度「教育実践研究」の成果の発表, その意義の解説(2) ... **全学**
  - (3) 今年度「教育実践フィールド研究」のねらい, 到達点の探究 ... **全学**
  - (4) 人間教育 or 特別支援教育 or 教科教育の視点からみた教育課題の探究 ... **コース別**
  - (5) 今年度の研究課題・テーマの説明 ... **全学**
- 2 教育課題についての共通理解づくり(10月~11月, 4回分)
  - (1) 当該の課題・テーマに取り組む視点と方法の明確化 ... **4チーム合同**
  - (2) 当該の課題・テーマに係わる学校現場の実態把握 ... **個別チーム別**
  - (3) 当該の課題・テーマに係わる学校現場の実態把握 ... **個別チーム別**
  - (4) 学校訪問の振り返り, チーム間での問題意識の共有化と個別化 ... **4チーム合同**
- 3 教科・領域の特性を活かした教育課題へのアプローチ(12月~2月, 6回分)
  - (1) 科教育の目標論に基づく課題・テーマの研究 ... **個別チーム別**
  - (2) 科教育の指導論に基づく課題・テーマの研究 ... **個別チーム別**
  - (3) 学の成果と方法に基づく課題・テーマの研究 ... **個別チーム別**
  - (4) 学の成果と方法に基づく課題・テーマの研究 ... **個別チーム別**
  - (5) 課題解決・テーマ追求の方向性の討議 ... **個別チーム別**
  - (6) 各教科・領域別の課題解決の視点と方法の発表, 意見交換 ... **4チーム合同**
- 4 子ども・教師の視点からの教育課題へのアプローチ(2月~3月, 3回分)
  - (1) 当該の課題・テーマに係わる 科教育の授業観察 ... **個別チーム別**
  - (2) 当該の課題・テーマに係わる 科教育の授業観察 ... **個別チーム別**
  - (3) 課題・テーマをめぐっての現職教員との意見交換 ... **4チーム合同**
- 5 教育課題の解決に向けた教材研究・授業開発(4月~5月, 6回分)
  - (1) 科教育の教材研究, 授業計画の方法論 ... **個別チーム別**
  - (2) 科教育の教材研究, 授業計画, 教材づくりの実習 ... **個別チーム別**
  - (3) 科教育の教材研究, 授業計画, 教材づくりの実習 ... **個別チーム別**
  - (4) 課題解決の達成度の評価方法 ... **個別チーム別**
  - (5) 授業計画の発表, 意見交換 ... **4チーム合同**
  - (6) 授業計画にもとづく現職教員との意見交換, 事前打ち合わせ ... **4チーム合同**
- 6 教育課題の解決につながる授業実践(5~6月, 3回分)
  - (1) 協力校での授業実践・反省 ... **個別チーム別**
  - (2) 協力校での授業実践・反省 ... **個別チーム別**
  - (3) 協力校での授業実践・反省 ... **個別チーム別**
- 7 授業実践の成果と課題(9月~10月, 3回分)
  - (1) 授業実践の振り返り, 成果と課題の確認 ... **4チーム合同**
  - (2) 授業実践の成果発表の準備 ... **4チーム合同**
  - (3) 授業実践の成果発表 - 「教育実践フィールド研究」フォーラム - ... **全学**

の回は, M1 の授業と相互乗り入れで実施する。



「教育実践フィールド研究」(社会科)のシラバス例  
 - グループ (8): 社会の見方・考え方を育てる授業・教材づくり -

A: 麻生, K: 草原, M: 町田

0 オリエンテーション(4月)

1 今日の学校教育の課題とそれをめぐる論点・争点(5月~7月, 5回分)

- |  |   |         |
|--|---|---------|
| (1) 教科教育, とくに社会科教育の視点からみた教育課題<br>(2) 教科教育, とくに社会科教育の視点からみた教育課題<br>(3) 前年度「教育実践研究」の成果の発表, その意義の解説<br>(4) 前年度「教育実践研究」の成果の発表, その意義の解説<br>(5) 今年度の教育課題・テーマ群の説明 希望テーマ提出 | } | 全学で終了済み |
|--|---|---------|

2 教育課題についての共通理解づくり(10月~11月, 4回分)

- |                                  |                       |
|----------------------------------|-----------------------|
| (1) 共通テーマの設定                     | <b>4チーム合同</b> (10月8日) |
| (2) 「社会の見方・考え方の育成」への取り組み方の協議     | (10月22日) AKM          |
| (3) 「社会の見方・考え方の育成」の実態把握, 授業見学(1) | (11月12日) K            |
| (4) 「社会の見方・考え方の育成」の実態把握, 授業見学(2) | (12月17日) K            |

3 各教科・領域の特性を活かした教育課題へのアプローチ(12月~2月, 6回分)

- |                                |                      |
|--------------------------------|----------------------|
| (1) 社会科の目標にもとづく教材づくりの視点        | (11月26日) K           |
| (2) 歴史学の成果と方法にもとづく「くらしの今と昔」の研究 | (12月3日) M            |
| (3) 法学の成果と方法にもとづく「けいさつの仕事」の研究  | (12月10日) A           |
| (4) 「くらしの今と昔」の教材構想の発表と研究協議     | (1月14日) AKM          |
| (5) 「けいさつの仕事」の教材構想の発表と研究協議     | (1月28日) AKM          |
| (6) 各チームの共通テーマに取り組む視点の発表, 意見交換 | <b>4チーム合同</b> (2月4日) |

4 子どもと教師の視点からの教育課題へのアプローチ(2月~3月, 3回分)

- |                                  |                      |
|----------------------------------|----------------------|
| (1) 協力校教員との研究協議, 教材の有効性と活用法の検討   | (1月31日) K            |
| (2) 子どものメタ認知の調査, 聞き取り・アンケートの結果分析 | (2月18日) K            |
| (3) 共通テーマをめぐっての意見交換, 1年間の成果と課題   | <b>4チーム合同</b> (3月4日) |

5 教育課題の解決に向けた教材研究・授業開発(4月~5月, 6回分)

- |                               |                      |
|-------------------------------|----------------------|
| (1) 教材を活用した社会科授業づくりの基本原則      | (4月15日)              |
| (2) 教材づくり, 授業づくりの実習           | (4月22日)              |
| (3) 教材づくり, 授業づくりの実習           | (5月13日)              |
| (4) 評価シートづくりの実習               | (5月20日)              |
| (5) 各チームの授業計画または実践成果の発表, 意見交換 | <b>4チーム合同</b> (6月3日) |
| (6) 協力校教員との研究協議, 実践に向けた打ち合わせ  | (5月のどこかで)            |

6 教育課題の解決につながる授業実践(5~6月, 3回分)

- |                                   |             |
|-----------------------------------|-------------|
| (1) 「くらしの今と昔」or 「けいさつの仕事」の授業実践・反省 | (5~6月のどこかで) |
| (2) 「くらしの今と昔」or 「けいさつの仕事」の授業実践・反省 | (5~6月のどこかで) |
| (3) 「くらしの今と昔」or 「けいさつの仕事」の授業実践・反省 | (5~6月のどこかで) |

7 授業実践の成果と課題(9月~10月, 3回分)

- |                                      |               |
|--------------------------------------|---------------|
| (1) 授業実践の振り返り, 成果と課題の確認              | <b>4チーム合同</b> |
| (2) 授業実践の成果発表の準備                     | <b>4チーム合同</b> |
| (3) 授業実践の成果発表 - 「教育実践フィールド研究」フォーラム - | <b>全学</b>     |

の回は, M1の授業と相互乗り入れで実施する。

## 資料3 平成20年度「教育実践フィールド研究」第1期の概要

4月16日(水)4限 B101 教室

**全体オリエンテーション** ... 草原和博, 山森直人

- ・前半(14時40分~15時25分)は全学的なオリエンテーション
- ・後半(15時30分~16時10分)は特設テーマのオリエンテーション(別室へ)

5月7日(水)4限 B101 教室

**第1講** 前年度「教育実践研究」の成果の発表, その意義の解説(1)

- ・「主体的に社会認識を形成する社会科学習の展開と構想」... 梅津正美
- ・「社会認識形成を支援する映像メディア教材の開発と試行」... 草原和博

5月14日(水)4限 B101 教室

**第2講** 前年度「教育実践研究」の成果の発表, その意義の解説(2)

- ・「目標・指導・評価の一体化をはかった英語授業」... 山森直人
- ・「音楽によるコミュニケーションの成立をめざした音楽授業の工夫」... 長島真人

5月21日(水)4限 B101 教室

**第3講** 今年度「教育実践フィールド研究」のねらい・到達点の探究

- 「教育の専門職」としてどのような専門性を身につけるのか -

- ・「教育実践力評価スタンダード」からみた教師の専門性... 梅津正美
- ・「教育実践研究の方法論」からみた教師の専門性... 草原和博

6月11日(水)4限

**第4講** 人間教育 or 特別支援教育 or 教科教育の視点からみた教育課題の探究

- とくに「教育」に求められる専門性とは何か -

各コース別に実施

6月25日(水)4限 B101 教室

**補講** 「教師に求められる専門的な資質・能力とは何か」... 長島真人・山森直人

講演会聴講に向けた事前指導

7月2日(水)4限 講堂

**第5講** 「教師に求められる専門的な資質・能力とは何か」... 長島真人・山森直人

- ・アメリカとフィンランドより教員養成の専門家を招き, 講演会&討論会を行います
- ・講師予定: マーツ(ピュージェットサウンド大学), コッホネン(タンペラ大学)

7月9日(水)4限 B101 教室

今年度の研究課題・テーマの説明 ... 山森直人, 草原和博

受講生は7月11日(水)までに希望テーマを提出 7月下旬に配属発表

資料4 平成20年度「教育実践フィールド研究」第2期のテーマ

教育課題	テーマ(作業課題)	主担当・世話役	テーマ(作業課題)に対するアプローチ
グループ : 表現・こころ・コミュニケーション	コミュニケーション過程に着目した学習指導の研究	2. 国語 余郷裕次	中学生への絵本の読み聞かせを通して、生徒相互、教師と生徒の信頼関係を育て、学力を向上させる工夫 (美郷中学校)
		13 音楽 長島真人	音楽によるコミュニケーションの成立をめざした音楽授業づくりの工夫(附属小学校)
		14 美術 鈴木久人	表現意欲を促す鑑賞教材について (附属小学校)
グループ : 社会・地域・暮らし	学びを社会や暮らしにどう活かすか	1. 国語 永田良太	国際化社会における多文化共生 (鳴門市国際交流協会)
		10 数学 松岡 隆	数学と実生活とのつながり (附属中学校)
		16 保体 南隆尚	鳴門の海を体感する里海体験活動 (城北高校)
グループ : 教材研究・教材づくり	各教科の特性・目標を踏まえて、子どもの興味・関心を引き出す教材を作成しよう	8 社会 草原和博	社会の見方・考え方を育てる授業・教材づくり (津田小学校)
		11 数学 廣瀬隆司	数字に対する興味・関心を高める教材づくり (附属小学校)
		12 音楽 山田啓明	文化としての理解をめざした音楽鑑賞の工夫 (附属中学校)
		15 美術 山木朝彦	鑑賞領域の教材開発 (附属中学校)
グループ : 教材・教具の活用	「ひきつける、力をつけられる」教材・教具の開発、利用、工夫を考える	6 英語 兼重昇	小学校における「英語ノート」(試作版)に基づいた外国語活動の授業実践:「英語ノート」の実用可能性と課題 (附属小学校)
		9 社会 立岡裕士	GISを活用した地理授業 (附属中学校)
		18 保体 木原資裕	中学校における武道の実技指導について - 用具不足を補う授業内容の展開 - (附属中学校)
グループ : 指導法・能力開発	教材のリテラシーをどうつかみ、教材・指導法の開発に活かすか	19 技.工.情 尾崎士郎	木材の曲げ加工を利用した独創的な木製品の製作 (附属中学校)
		3 国語 村井万里子	メディアリテラシーを育てる中学校国語科指導 (附属中学校)
		4 英語 伊東治己	高等学校における英語ライティング指導の改善 (鳴門高等学校)
		5 英語 山森直人	中学校英語科授業のプラス1時間にどのように対応するか - 英語スキルアップトレーニング法の開発 - (附属中学校)
		7 社会 梅津正美	思考力を培う地理歴史科の授業開発 (池田高等学校)
		17 保体 綿引勝美	中学校保体授業でいかにコーディネーション能力育成を取り入れ、高めるか? (附属中学校)

## 専門職 G P 事例報告

### 教育の専門職養成のためのコアカリキュラム

- 「教育実践フィールド研究」グループ 英語チームの活動報告 -

鳴門教育大学 人文・社会系教育部 准教授 山 森 直 人

---

### 報告者 略歴

学 位 平成13年10月 博士（教育学）広島大学

現在の研究分野 英語教育学

学会及び社会における主な活動 四国英語教育学会理事(平成14年～現在)

#### 主要研究業績

- 『コミュニケーションな文法指導 理論と実践』開文社，共著  
(2003)
- 「小学校英語活動に関する徳島県小学校教員の意識」『四国英語教育学会紀要』第24号，pp.91-100，共著（2004）
- 「コミュニケーション志向の英語教育の実現過程について 公立高等学校における英語科経営の先進事例をもとに」『鳴門教育大学研究紀要』第20巻，pp.147-161，単著（2005）
- 「英語教師に求められる英語力の概念枠組みの構築」『鳴門英語研究』第19号，pp.145-167，単著（2006）
- 「英語授業において教師が使用する英語の教育的機能 教室英語の分析枠組み(FORCE)の構想の試み」『鳴門教育大学研究紀要』(CD-ROM版)第22巻，pp.161-174，単著（2007）
- 「教室英語の分析枠組み(FORCE)の有効性の検証 英語科教育実習生の事例分析を通じて」『大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要』第4号，pp.37-53，単著（2007）
- 「学校英語教育実践の社会的構成 英語科経営の分析枠組みを求め」『鳴門英語研究』第20号，pp.1-17，単著（2007）
- On Autonomy of English Language Teachers: Who Exercises Autonomous Discretion in Upper Secondary English Language Education? International Journal of Curriculum Development and Practice, Vol.9, No.1, 25-36, 単著（2007）
- 「学校英語教育における英語科経営 もう一つの英語科授業研究」『三浦省五先生退職記念 英語教育学研究』pp.293-313，単著（2007）



専門職GP事例報告(2)

教育の専門職養成のための  
コアカリキュラム

—「教育実践フィールド研究」グループV 英語チームの活動報告—

活動報告の概要

1. チーム活動の概要
2. チーム活動の実際
3. チーム活動の成果
4. まとめ: 活動を通して見えてくるもの

1. チーム活動の概要

「教育実践フィールド研究」グループV 担当教員と受講生

チーム番号	コース	テーマ	担当教員	学生人数	現職	M	L2
3	言語系コース (国語)	メディアリテラシーを育てる中学校国語科指導	4	5	2	3	0
4	言語系コース (英語)	高等学校における英語ライティング指導の改善	2	5	2	2	1
5	言語系コース (英語)	中学校英語科授業のプラス1時間にもどのように対応するかー英語スキルアップトレーニング法の開発ー	2	7	2	2	3
7	社会系コース	思考力を培う地理歴史科の授業開発	2	4	1	1	2
17	生活健康系コース (保健体育)	中学校保健授業でいかにコーディネーション能力育成を取り入れ、高めるか?	1	4	0	4	0

共通作業課題  
教科のリテラシーをどうつかみ、教材・指導法の開発に活かすか

1. チーム活動の概要

- ・ 協力校・協力教員  
鳴門教育大学附属中学校 英語科教員

- ・ 研究課題

中学校英語科授業のプラス1時間にもどのように対応するかー英語スキルアップトレーニング法の開発ー

1. チーム活動の概要

・シラバス全体に占めるチーム活動の位置づけ

1. プロジェクトの主旨・目的と日程
  - (1) 前年度「教育実践研究」の成果の発表、その意義の解説 (1)
  - (2) 前年度「教育実践研究」の成果の発表、その意義の解説 (2)
  - (3) 今年度「教育実践フィールド研究」のねらい、到達点の探究
  - (4) 英語科教育の視点から見た教育課題の探究
  - (5) 今年度の研究課題・テーマの説明
2. 研究課題の共通理解と方向性の検討
  - (1) チーム内オリエンテーション
  - (2) 研究課題の共通理解と方向性の確認
  - (3) チーム内班編成と実施計画立案
  - (4) 協力校教員との検討会1: 研究課題の共通理解
3. スキルアップトレーニング法の理論的枠組みの構築および具体案の開発
  - (1) 協力校教員の助言にもとづく方向性の確定
  - (2) スキルアップトレーニング構成のための理論的枠組みに関する検討①
  - (3) スキルアップトレーニング構成のための理論的枠組みに関する検討②
  - (4) スキルアップトレーニング構成のための理論的枠組みに関する検討③
  - (5) 理論的枠組みにもとづくスキルアップトレーニング法の具体案の開発①
  - (6) 理論的枠組みにもとづくスキルアップトレーニング法の具体案の開発②
  - (7) 理論的枠組みにもとづくスキルアップトレーニング法の具体案の開発③
  - (8) 協力校教員との検討会2: スキルアップトレーニング法の具体案の検討
4. スキルアップトレーニングの試行あるいは『ハンドブック』の作成
  - (1) スキルアップトレーニングの試行あるいは『ハンドブック』の作成①
  - (2) スキルアップトレーニングの試行あるいは『ハンドブック』の作成②
  - (3) スキルアップトレーニングの試行あるいは『ハンドブック』の作成③
  - (4) 協力校教員との検討会3: 報告・反省会

チーム活動  
4月開始

12月現在

1. チーム活動の概要

ステージ1  
(4-6月)

2. 研究課題の共通理解と方向性の検討

- (1) チーム内オリエンテーション
- (2) 研究課題の共通理解と方向性の確認
- (3) チーム内班編成と実施計画立案
- (4) 協力校教員との検討会1: 研究課題の共通理解

ステージ2  
(7-8月)

3. スキルアップトレーニング法の理論的枠組みの構築および具体案の開発

- (1) 協力校教員の助言にもとづく方向性の確定
- (2) スキルアップトレーニング構成のための理論的枠組みに関する検討①
- (3) スキルアップトレーニング構成のための理論的枠組みに関する検討②
- (4) スキルアップトレーニング構成のための理論的枠組みに関する検討③
- (5) 理論的枠組みにもとづくスキルアップトレーニング法の具体案の開発①
- (6) 理論的枠組みにもとづくスキルアップトレーニング法の具体案の開発②
- (7) 理論的枠組みにもとづくスキルアップトレーニング法の具体案の開発③
- (8) 協力校教員との検討会2: スキルアップトレーニング法の具体案の検討

ステージ3  
(9-12月...)

4. スキルアップトレーニングの試行あるいは『ハンドブック』の作成

- (1) スキルアップトレーニングの試行あるいは『ハンドブック』の作成①
- (2) スキルアップトレーニングの試行あるいは『ハンドブック』の作成②
- (3) スキルアップトレーニングの試行あるいは『ハンドブック』の作成③
- (4) 協力校教員との検討会3: 報告・反省会

## 2. チーム活動の実際

### ステージ1 研究課題の共通理解と方向性の検討

- (1) チーム内オリエンテーション
- (2) 研究課題の共通理解と方向性の確認
- (3) チーム内班編成と実施計画立案
- (4) 協力校教員との検討会1：研究課題の共通理解

### 共通理解：課題の背景

2008年3月 新学習指導要領の告示  
 <中学校英語の授業時間数>  
 年間: 105時間 → 140時間  
 週: 3時間 → 4時間  
 ※文法事項等(単語数を除く)の指導内容はほとんど増加していない



文法事項等の定着を確実に図り、  
 コミュニケーション能力の基礎を育成すること

7

## 2. チーム活動の実際

### 共通理解：課題の背景

### 積み上げ型の英語教育

一単元を基本単位として指導・学習単元ごとに学習項目を定着させていくことにより、最終的にそれらの総和としての英語力が獲得されるという教育観・学習観



## 2. チーム活動の実際

### 共通理解：課題の背景

英語の学習活動とコミュニケーション活動の  
 あいだにある「谷間をわたる橋」を構築する

### 英語の学習活動

現在進行 受動態  
 関係代名詞



### 英語のコミュニケーション活動

Do you like English?  
 Yes, I love it.



### スキルアップトレーニング



9

## 2. チーム活動の実際

### どのようなトレーニングを開発するか？

- ① 期間限定トレーニング  
 その時に学ぶ文法事項を身に付けさせるもの  
 (6月 完了形 9月 接触節 10月・11月 関係代名詞)
- ② 年間を通じて行うトレーニング  
 方法自体は同じで使う語や文法事項をその時々によってあてはめれば、  
 年間を通じて使えるトレーニングの枠組み
- ③ 軸をずらす(軸を固める)トレーニング  
 文法的な役割が同じものをまとめ、生徒に認識させていく  
 (例) 接触節  
 英語の立体表現  
 x軸 語順: SV...  
 y軸 時制: 過去完了 過去 現在 現在進行形 未来  
 z軸 文の変換: 疑問文・否定文の作り方...

10

## 2. チーム活動の実際

### 何をトレーニングするか？

協力校教員との第1回検討会を通してみてきたもの

- ・生徒の表現力を高めることが重要であること
- ・英語表現に行きつっても、既習表現や単語を応用して表現することができること
- ・時制・人称・語順の定着は生徒にとって不可欠であること
- ・生徒は時制の選択に困難を感じていること
- ・生徒は名詞節をつくることが十分にできていないということ
- ・生徒は既習表現でも、実際に使おうとすると使うことができないこと



### 3次元構文トレーニング

文構造・時制・人称

### 名詞の後置修飾トレーニング

前置詞句, to 不定詞, 分詞(現在・過去分詞), 関係代名詞(主格・目的語)



11

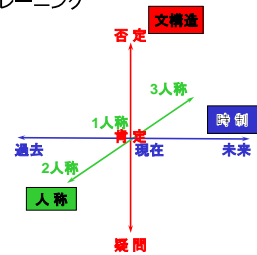
## 2. チーム活動の実際

### 3次元構文トレーニング

英語の構文を文構造・時制・人称の3つの軸から構成される  
 3次元空間として捉え、その空間内に構成されるさまざまな  
 英語構文を駆使する力を養うトレーニング

### <英語構文>

- ・文構造  
 5文型、平叙・否定・疑問文、  
 感嘆文・命令文、態(受動・能動)
  - ・時制  
 現在形、過去形、未来形など
  - ・人称  
 1人称、2人称、3人称
- + 「つながり」「まとまり」



12

## 2. チーム活動の実際

### 名詞の後置修飾トレーニング

「後ろから修飾する」という日本語にはない英語の特徴を理解させ、その修飾表現を習得することで、自分の言いたいことを適切にかつ豊かに表現できる力を養うことを目指したトレーニング

#### <中学校で学習する名詞の後置修飾>

- (1) 語句で前の名詞を修飾するもの
  - ① 前置詞+語句(前置詞句)
  - ② A 現在分詞  
B 過去分詞  
C 不定詞
- (2) 文で前の名詞を修飾するもの
  - ③ A接飾節(目的格の関係代名詞の省略)  
B主格の関係代名詞

前置詞句  
現在・過去分詞  
不定詞  
関係代名詞...

名詞

13

## 2. チーム活動の実際

### ステージ2 スキルアップトレーニング法の理論的枠組みの構築および具体案の開発

- (1) 協力校教員の助言にもとづく方向性の確定
- (2)-(4) スキルアップトレーニング構成のための理論的枠組みに関する検討
- (5)-(7) 理論的枠組みにもとづくスキルアップトレーニング法の具体案の開発
- (8) 協力校教員との検討会2：スキルアップトレーニング法の具体案の検討

- ・トレーニング法のさまざまな具体案を提示・検討
- ・しかし、定まらない方向性

何をめざしてトレーニングするか？

最終目標の設定の必要性  
試行錯誤のすえ...

14

## 2. チーム活動の実際

### 3次元構文トレーニング

最終目標:  
適切な文構造・時制・人称を用いてある程度のつながりとまとまりのある簡単な英文で表現することができる。

### 名詞の後置修飾トレーニング

最終目標:  
名詞の後置修飾を用いて相手に分かるように人や物・事がらを説明することができる。

目標に向けていかにトレーニングを段階づけるか？

- ・スキルアップトレーニングには2つの段階があるのではないが
  - ①ルールとして知る段階(ドリル、知識)
  - ②それを使って言い換える表現をする段階(思考、気づき)
- ・目標にむけた段階(段階)の設定の必要性  
試行錯誤のすえ...



16

## 2. チーム活動の実際

### 3次元構文トレーニング

第3段階... 適切な文構造・時制・人称を用いてある程度のつながりとまとまりのある簡単な英文で表現することができる。

第2段階... 日本文を見て瞬時に英文に直すことができる。

第1段階... 英語の文構造を理解するとともに、時制や人称によって動詞の形が変わることに気づく。

## 2. チーム活動の実際

### 名詞の後置修飾トレーニング

第3段階... 名詞の後置修飾を用いて相手に分かるように人や物・事がらを説明することができる。

第2段階... 英語と日本語における名詞の後置修飾の仕方の違いに気づき、日本語を英語に換えて表現することができる。

第1段階... 名詞の後置修飾の機能を果たす既習の言語形式を整理し、それらを総括的に理解するための認知的な道具を得て、簡単な名詞の後置修飾を理解・表現することができる。



17

## 2. チーム活動の実際

- ・最終目標と段階に基づき、それまで考えてきたトレーニング法の編み直し作業とワークシート案の作成
- ・協力校教員との第2回検討会を通してみてきたもの



自己表現力の育成

「3次元構文」と「名詞の後置修飾」は英語使用の基本軸

トレーニングと自己表現力の育成との関係は？

開発したトレーニングの意味は？

第3段階の充実:  
自己表現的活動を増やす

トレーニングを通して  
英語の基本軸「体幹」を鍛える

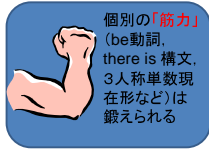
## 2. チーム活動の実際

**ステージ3** スキルアップトレーニングの試行あるいは『ハンドブック』の作成  
 (1)-(3) スキルアップトレーニングの試行あるいは『ハンドブック』の作成  
 (4) 協力校教員との検討会3：報告・反省会

グループVの合同授業(12/10)における進捗状況の発表にむけて...

課題の読み直し 英語の「体かづくり」

**積み上げ型**・・・英語の体かづくりにあたって各部の筋力を個別に鍛え、最終的にそれらの総和としての英語体力を獲得



個々の筋力をバランスよく使いこなすためには「体幹」を鍛えるべき



**体幹強化型**・・・英語の体かづくりにあたって各部の筋力をバランスよく使うための体幹を鍛え、英語体力を強化

19

## 2. チーム活動の実際

課題の読み直し

体幹・・・筋力トレーニングの一対象として注目  
 身体を中心である胴体部分  
 身体を動かす際に重要な役割を果たす

体幹を鍛える ⇒

バランス良く  
スムーズな動き



20

## 2. チーム活動の実際

課題の読み直し

英語の「体幹」とは



**構文**  
 文構造(5文型, 平叙・否定・疑問文, 命令文...)  
 時制(現在, 過去, 未来...)  
 人称(1人称, 2人称, 3人称)

**語順**

**後置修飾**  
**名詞** 前置詞句, 分詞, 関係代名詞...



3次元構文トレーニング

名詞の後置修飾トレーニング

英語「体幹」トレーニング

21

## 3. チーム活動の成果

『英語「体幹」トレーニング・ハンドブック』

**目的**

英語「体幹」トレーニングの意味, 3次元構文トレーニングと名詞の後置修飾トレーニングの目標・主旨とねらい, トレーニング方法の具体案を提示する

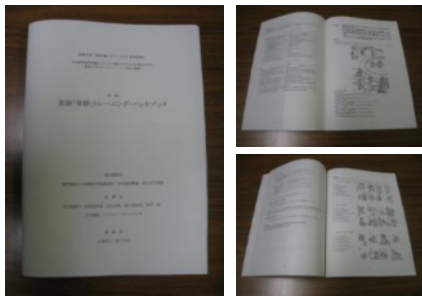
**構成**

第1章 はじめに  
 第2章 3次元構文トレーニング  
 第3章 名詞の後置修飾トレーニング  
 第4章 新学習指導要領に対応した英語「体幹」トレーニング活用方法  
 第5章 おわりに

22

## 3. チーム活動の成果

『英語「体幹」トレーニング・ハンドブック』



グループVの合同授業(12/10)における進捗状況発表の際に配布したハンドブック草稿

## 4. まとめ: 活動を通して見えてくるもの

英語教科書(ワークブック)の活用  
 英語教科書(ワークブック)の活用

- 実践の知: どのようなトレーニングを開発するか?
- 研究の知: 何をトレーニングするか?
- 実践の知: 何をめざしてトレーニングするか?
- 研究の知: 目標に向けていかにトレーニングを段階づけるか?
- 実践の知: トレーニングと自己表現力の育成との関係は?
- 研究の知: 開発したトレーニングの意味は?

- 「問い」の変化
- 「問い」を通して課題に接近
- 「問い」立ての重要性
- 「問い」を立てる場のデザイン



24

## フローチャート 3次元構文トレーニング

### 最終目標

適切な文構造・時制・人称を用いて5文以上のつながりとまとまりのある簡単な英文で表現することができる。

第1段階・・・英語の文構造を理解するとともに、時制や人称によって動詞の形が変わることに気づく。(文構造基礎徹底トレーニング)  
①英語と日本語の文構造の違いを理解する  
②時制や人称によって動詞の形が変わることに気づく

**活動例** 文構造・時制・人称基礎徹底トレーニング

- 【ステップ1】教科書風日本語→英訳
- 【ステップ2】主語がない文→英訳
- 【ステップ3】パラフレーズ, 和文和訳→英訳



第2段階・・・日本文を見て瞬時に英文に直すことができる。(速訳トレーニング)  
①文構造を意識しながら英語に置き換えることができる  
②時制や人称によって動詞の形を変えることができる

**活動例1** 速訳トレーニング part1 一文の日本文から英文を作る

- 【ステップ1】英語に訳しやすい日本語→英訳
- 【ステップ2】主語がない文→英訳
- 【ステップ3】パラフレーズ, 和文和訳→英訳

**活動例2** 速訳トレーニング part2



第3段階・・・適切な文構造・時制・人称を用いてある程度のつながりとまとまりのある簡単な英文で表現することができる。  
①1つの絵を見てその状況を適切な文構造・時制・人称を用いて表現できる  
②つながりとまとまりのある文章を話したり、書いたりする時に必要な場所と時間を表わす前置詞、接続詞、副詞について理解し、適切に表現できる  
③展開のある事柄や出来事を描写するために適切な文構造・時制・人称を用いて表現できる  
④あるテーマについて(過去の経験や自分の目標など)適切な文構造・時制・人称を用いてつながりとまとまりのある文章で表現できる

**活動例1** 一つの絵を見てその状況を適切な英語で表現する活動

次ページの活動例を参照のこと

**活動例2** 文と文をつなぐ言葉(接続詞・副詞・代名詞など)を使った活動

**活動例3** 順序やストーリー性のある話を英語で表現する活動

- 【ステップ1】1日の行動を英語で表現する
- 【ステップ2】ストーリー性のある4コマ漫画を英語で表現する

**活動例4** テーマにそった内容を5文以上の英文で表現する活動(自己表現活動)

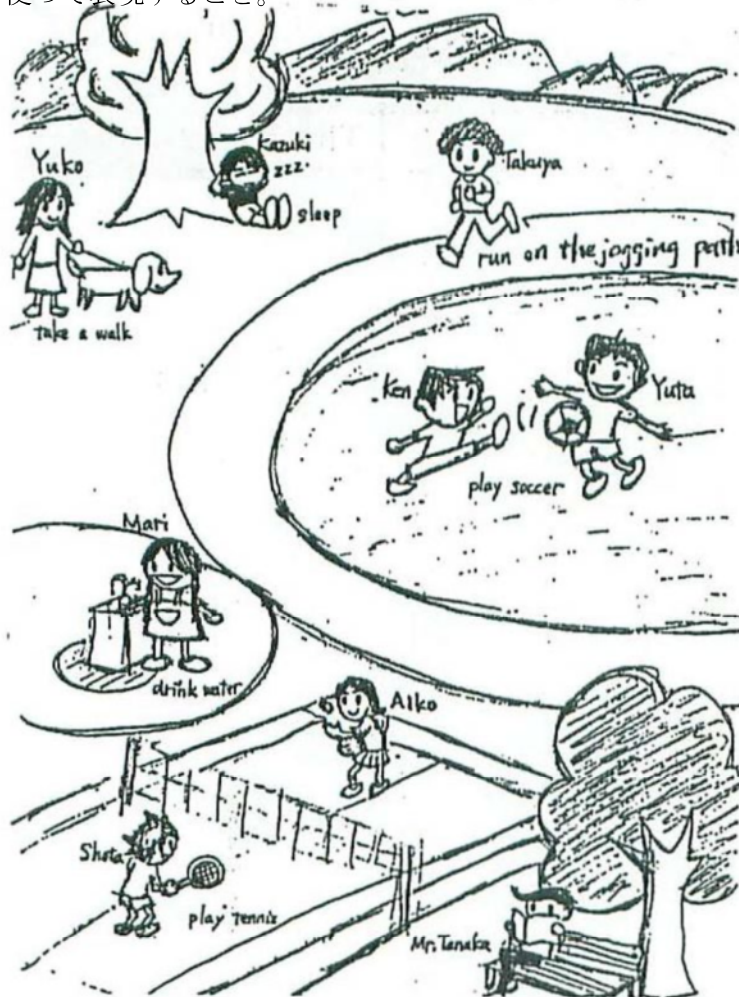


第3段階・・・適切な文構造・時制・人称を用いてある程度のつながりとまとまりのある簡単な英文で表現することができる。

- ①1つの絵を見てその状況を適切な文構造・時制・人称を用いて表現できる。
- ②つながりとまとまりのある文章を話したり、書いたりする時に必要な場所と時間を表わす前置詞、接続詞、副詞について理解し、適切に表現できる。
- ③展開のある事柄や出来事を描写するために適切な文構造・時制・人称を用いて表現できる。
- ④あるテーマについて（過去の経験や自分の目標など）適切な文構造・時制・人称を用いてつながりとまとまりのある文章で表現できる。

活動例1

次の絵を見て誰が何をしているのかを英語で説明しましょう。ただし、ア) 現在形、イ) 現在進行形、ウ) 過去形、エ) 未来形を使って表現すること。



ア) 現在形（習慣）

- ①Yuko, 毎日  
Yuko takes a walk with her dog in the park every day.
- ②Kazuki, しばしば  
Kazuki often sleeps under the tree in the park.
- ③Takuya, 毎朝  
Takuya runs on the jogging path in the park every morning.
- ④Ken と Yuta, 毎週土曜日  
Ken and Yuta play soccer in the park on Saturdays.
- ⑤Mari, ときどき  
Mari sometimes drinks some water in the park.
- ⑥Aiko と Shota, 毎週日曜日  
Aiko and Shota play tennis in the park on Sundays.
- ⑦Mr. Tanaka, 毎朝  
Mr. Tanaka reads a book on the bench every morning.

フローチャート 名詞の後置修飾トレーニング

最終目標

名詞の後置修飾の表現を用いて相手に分かるように人や物・事がらを説明することができる。

第1段階・・・名詞の後置修飾の機能を果たす既習の言語形式を整理し、それらを総括的に理解するための認知的な道具を得、簡単な名詞の後置修飾を理解・表現することができる。

名詞の後置修飾の整理 名詞の後置修飾の機能を果たす既習の言語形式の整理

認知的な道具 名詞の後置修飾を総括的に理解するための認知的な道具

活動例1 前置詞+語句

- 【ステップ1】 絵を見て前置詞を選び入れ→前置詞句
- 【ステップ2】 前置詞+場所を絵から読み取り→前置詞句
- 【ステップ3】 前置詞句を用いた文

活動例2 現在分詞・過去分詞・不定詞

活動例3 接触節（目的格の関係代名詞の省略）

- 【ステップ1】 修飾関係が図示された接触節（目的格の関係代名詞の省略）句→和訳
- 【ステップ2】 先行詞だけが強調された接触節（目的格の関係代名詞の省略）句→和訳
- 【ステップ3】 接触節（目的格の関係代名詞の省略）句→和訳

活動例4 主格の関係代名詞



第2段階・・・英語と日本語における名詞の後置修飾の仕方の違いに気づき、日本語を英語に換えて言うことができる。

活動例1

- 【ステップ1】 日本語→英訳（名詞の後置修飾表現の構造によって分類）
- 【ステップ2】 間違えやすい日本語→適切な英訳の選択
- 【ステップ3】 日本語→英訳

次ページの活動例を参照のこと



第3段階・・・名詞の後置修飾を用いて相手に分かるように人や物・事がらを説明することができる。

- |      |                  |                                  |
|------|------------------|----------------------------------|
| 活動例1 | 「先生の名前は？」        | 現在分詞の後置修飾を使ったコミュニケーション活動         |
| 活動例2 | 「持ってる？」          | 過去分詞の後置修飾を使ったコミュニケーション活動         |
| 活動例3 | 「職業当て」           | 関係代名詞の後置修飾を使ったコミュニケーション活動        |
| 活動例4 | 「犯人は誰だ」          | 名詞の後置修飾を総合的に使ったコミュニケーション活動       |
| 活動例5 | 「どの絵？」           | 名詞の後置修飾を総合的に使ったコミュニケーション活動       |
| 活動例6 | 「私の宝もの」          | 名詞の後置修飾を総合的に使った自己表現活動（Show&Tell） |
| 活動例7 | 「あったらいいな、いたらいいな」 | 名詞の後置修飾を総合的に使った自己表現活動（ライティング）    |

資料:「教育実践フィールド研究」グループV 英語チームの活動報告

第2段階・・・英語と日本語における名詞の後置修飾の仕方の違いに気づき、日本語を英語に換えて言うことができる

【ステップ1】 日本語→英訳（名詞の後置修飾表現の構造によって分類）

日本語を英語にかえて言いましょ。言えたらチェック欄に✓を書きましょ。また、全部言うのにかかった時間（秒数）を記入しましょ。  
↓ここで縦に折る

チェック欄							解 答
1	2	3	4				
				前置詞+ 語句	ケンからの	手紙 a letter	from Ken
					木の下	女の子 a girl	under the tree
					イスの上	猫 a cat	on the chair
				現在分詞	その町に住んでいる	人々 the people	living in the town
					むこうで走っている	犬 the dog	running over there
					木の下で本を読んでいる	女の子 the girl	reading a book under the tree
				過去分詞	英語で書かれた	手紙 a letter	written in English
					だれからも愛されている	子ども a child	loved by everyone
					中国で作られた	カップ a cup	made in China
				不定詞	すべき	こと things	to do
					会うことになっている	人々 the people	to meet
					食べる	もの something	to eat
				接触節 目的格の関係代名詞の省略	私たちが駅で会った	女性 the woman	we met at the station
					あなたが作った	パイ the pie	you made
					私が昨日なくした	ペン the pen	I lost yesterday
				主格の関係代名詞	英語を話せる	人 the person	who can speak English
					カメラを作る	会社 a company	which makes cameras
					日本で人気のある	音楽 music	that is popular in Japan

かかった時間

1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目
秒	秒	秒	秒	秒	秒	秒	秒	秒	秒

《バリエーション》「かかった時間」を記録するかわりに時間内（例：2分間）にいくつ言えたかを記録させてもよい。



*M E M O*

---

パネルディスカッション

## パネルディスカッション

司会 鳴門教育大学 基礎・臨床系教育部 教授 村川 雅弘

---

### 司会者 略歴

学 位	昭和57年3月 学術修士 大阪大学
現在の研究分野	教育工学，カリキュラム研究，総合的な学習，生活科，ワークショップ研修
学会及び社会における主な活動	日本カリキュラム学会理事(平成11年～現在) 日本教育メディア学会理事(平成9年～現在) 日本教育工学会理事(平成11年～平成18年)・同評議員(平成19年～現在) 文部省教育研究開発企画評価協力者(平成7年～平成18年) 文部省小学校学習指導要領(総則)の改善に関する調査研究協力者(平成10年度) 文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「生活科・総合的な学習の時間」専門部会委員(平成16年～平成19年) 文部科学省学習指導要領解説総合的な学習の時間編作成協力者[小学校編・中学校編](平成19年～20年)
主要研究業績	「小学校低学年の『生活科』を志向したカリキュラム開発に関する研究」『教育方法学研究』第13巻，単著(1988) 『ふれあいを重視した生活科の総合的な展開』明治図書，編著(1997) 『総合的な学習のすすめ』日本文教出版，編著(1997) 『小学校総合的な学習の新展開』明治図書，編著(1997) 『小学校学習指導要領の展開「総合的な学習」編』明治図書，編著(1999) 『“実践に学ぶ”特色ある学校づくり 「総合的な学習」編』教育開発研究所，編著(1999) 『ふれあいが育む豊かな心-総合的な学習と道徳の新しい関係-』明治図書，編著(1999) 『実践 特色ある学校づくり(小学校編・中学校編)』図書文化，編著(2000) 「総合的な学習カリキュラム開発の類型化」『教育実践学研究』第2巻第1号，単著(2000) 『「生きる力」を育むポートフォリオ評価』ぎょうせい，編著(2001) 『子どもたちのプロジェクトS』NHK出版，編著(2002) 『日本の未来はこれで変わる-学ぶ力は向上する!-』日本文教出版，編著(2002) 『「確かな学力」としての学びのスキル』日本文教出版，編著(2004) 『授業にいかす 教師がいきる ワークショップ型研修のすすめ』ぎょうせい，編著(2005) 『総合的な学習充実化戦略のすべて』日本文教出版，編著(2006) 『教科と総合の関連で真の学力を育む』ぎょうせい，編著(2008)

*M E M O*

---

## パネルディスカッション

### 教師力育成のカリキュラム

- 信州大学教育学部の取り組み -

信州大学 教育学部 臨床教育推進室長 伏木 久 始

## パネリスト 略歴

学 位 平成12年3月 博士(教育学) 東京学芸大学

現在の研究分野 教育方法学, 教師教育学

学会及び社会における主な活動

日本公民教育学会常任理事(平成14年~現在)  
長野市社会教育委員(平成18年11月~現在)  
長野市教員10年経験者研修・指導講師(平成15年度~現在)  
自然体験活動指導者養成研修会指導講師(平成20年度)  
長野県学力実態調査検討委員会・有識者委員(平成19年度)  
(長野県)全国学力・学習状況調査検討・改善委員会・有識者委員  
(平成19年度)  
全国教頭会・総務部要請部会講演会講師(平成20年度)

主要研究業績

「地域の公立学校での『体験』と大学での『省察』を連動させた『教育臨床演習』のカリキュラム開発とその実践」『信州大学教育学部紀要』No.121, pp.61-71, 単著(2008)  
「中国の学校教育に新設された『総合実践活動』のカリキュラムの特徴」『信州大学教育学部紀要』No.121, pp.73-81, 共著(2008)  
「総合的な学習に対する教師の意識についての調査研究 - 総合的な学習の実践に関する満足要因・不満足要因に着目して - 」『教育実践研究』第8集, pp.21-32, 共著(2007)  
「蓄積する体験と深化する省察による実践的指導力の育成を目指した教員養成プログラムの実践」『日本教育大学協会研究年報』第25集, 日本教育大学協会第二常置委員会, pp.137-149, 共著(2007)  
「授業イメージを高めるとのこと」『学習研究』No.423, pp.56-61 単著(2006)  
「デンマーク・ゲントフテ市のSKUBプロジェクトの試み - 個々の学習スタイルを尊重する学校建築と教育方法の改革 - 」『信州大学教育学部紀要』No.117, pp.183-193, 単著(2006)  
「スウェーデンの基礎学校における『学習計画能力』指導の評価 - ログブック指導についての実態調査の分析を中心に - 」『教育実践研究』第6集, pp.21-31, 共著(2005)  
「川口プランの実践的課題とカリキュラムの改訂」『信州大学教育学部紀要』No.116, pp.169-180, 単著(2005)  
「スウェーデンの基礎学校における学習計画能力の育成をめざした指導 - エクランダ校のログブックの活用法を事例として - 」『汎バルト海・スカンジナビア国際学会誌』pp.19-45, 共著(2005)  
「教職科目『総合演習』の授業改善に関する基礎的研究 - 信州大学教育学部における学生の授業評価の分析に着目して - 」『高等教育システムセンター紀要』第1号, pp.19-30, 共著(2005)  
『学力向上をめざす発展的学習の展開』東京法令, 共著(2005)  
『基礎基本の習得をめざす新しい授業実践』東京法令, 共著(2005)  
『21世紀 国際化時代の相対主義社会科授業の理論と実践』東洋館出版, pp.45-52, 共著(2001)  
『「資源・エネルギー・環境」学習の基礎・基本 - 21世紀に向けた環境教育』国土社, pp.60-65 / 238-247 / 248-259, 共著(2000)

鳴門教育大学  
特色GP・専門職GPシンポジウム

**教師力育成のカリキュラム**  
— 信州大学教育学部の取り組み —

臨床教育推進室  
室長 伏木 久 始

信州大学 教育学部  
Shinshu University  
Faculty of Education  
http://eduinfo.shinshu-u.ac.jp/

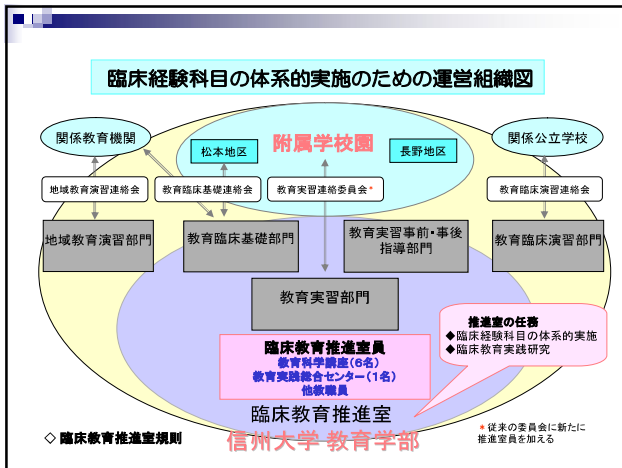
### 1. 教員養成改革のための組織づくり

■ 改革の背景  
平成10年度までの学部の教員養成の反省  
平成11年度の学部改革→「臨床の知」

- ◆1年生「教育参加」(H8)・「学校教育臨床基礎」(H14)
- ◆2年生「学校教育臨床演習」(H12)

→ 臨床経験科目の体系化が課題  
平成16年度に組織案を検討  
平成17年4月「臨床教育推進室」発足！

**信州大学に赴任**



### 2. 信州大学教育学部の特色

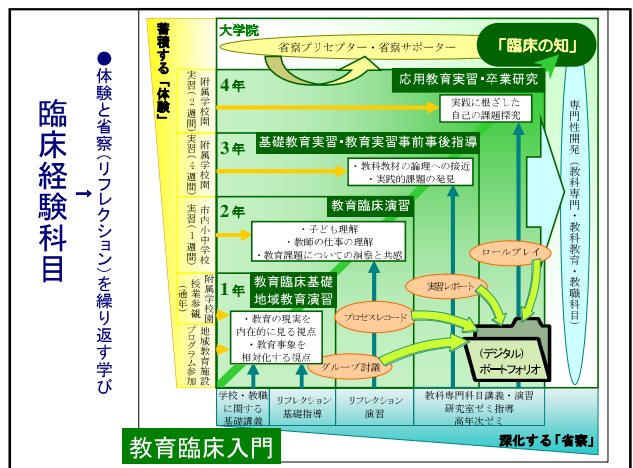
- 「臨床の知」をスローガンに、実践的指導力の育成をめざすカリキュラム(H11～)
- 現場での「体験」とその「省察」を重視する  
→ H17～H18 教員養成GP
- 実践と科学的考察を融合する学びをめざす  
(教科専門 + 教科教育 + 教育学の連携)  
→ H19～H21 大学院GP

### 3. 「体験」と「研究」の往還

「学識に裏打ちされた科学的・反省的な思考を展開できる能力」  
…教育者に求められる資質の一つとして

↓

教育現場での体験を体系づけるだけでなく、一連の経験を研究的に省察する機会を提供









### 6. 「教育臨床演習」とは...

【学校教育教員養成課程】必修科目

1年次の「教育臨床基礎」での学びを土台として、“外側”から眺めるだけでは理解できない子どもの実態、子ども同士や子どもと教師の関係性、さらに学校内外での教師の仕事の現実を、“教育現場”に入り込んで体感しながら学び取ることを目的とした**臨床実習**と、個々の体験の意味を協同で省察する**リフレクション演習**を組み合わせた授業科目。3年次以降の**教育実習の事前学習**として位置づける。

開校日	中学校	学級数	学生数	教育	施設	実施
8月22日	飯野	15	10	0	1	1
8月22日	川中島	18	8	1	1	1
8月29日	岡原	18	10	1	1	1
8月31日	高野	9	7	1	1	1
9月1日	北郷	20	8	1	1	1
9月5日	徳ヶ岡	17	8	1	1	1
9月5日	桐花	18	10	1	1	1
9月5日	三輪	18	8	1	1	1
9月12日	栗原	24	10	1	1	1
9月12日	藤ノ原西	17	8	1	1	1
小計			213	0	8	8
9月22日	湯谷	20	8	1	1	1
9月29日	川中島	13	8	1	1	1
9月29日	坂東	15	8	1	1	1
9月29日	加茂	11	8	1	1	1
9月29日	高野	11	8	1	1	1
9月29日	吉野	14	8	1	1	1
9月5日	徳聖	23	8	1	1	1
9月5日	吉田	24	8	1	1	1
9月5日	三輪	19	7	1	1	1
9月5日	福山	19	8	1	1	1
9月5日	平岡	22	8	1	1	1
9月5日	桐花	23	8	1	1	1
9月5日	湯谷	25	8	1	1	1
9月5日	福原	14	8	1	1	1
9月5日	安楽里	14	8	1	1	1
9月5日	桐野	24	8	1	1	1
9月8日	浅川	12	8	1	1	1
9月12日	福原南	3	8	1	1	1
9月13日	坂東	8	8	1	1	1
小計			121	13	3	3
合計			213	13	12	12

原則として同じ分野の学生が同じ学校で実習することはない

1学級に1人配属という割り振りをお願いしている

学校・学級ごとに体験内容が異なる



### 長野市10年研ともタイアップ

10年研の研修単位に換算  
学生のリフレクションに合流

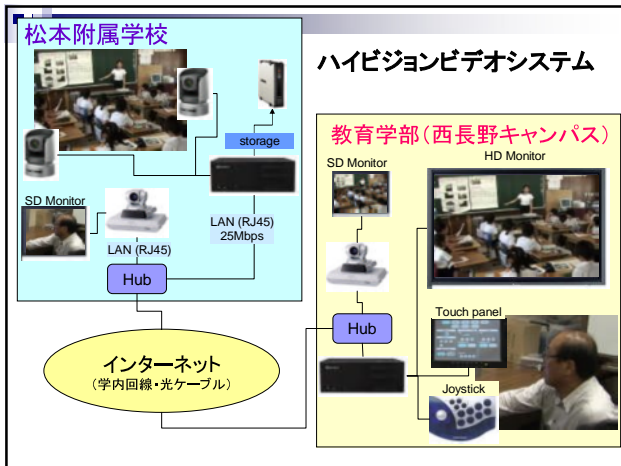
水曜日14:40～の授業に  
オブザーバーとして参加



## 7. 教育実習

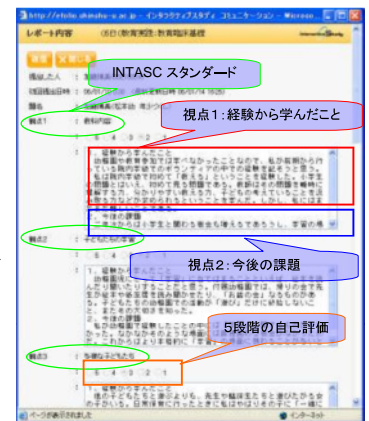
- 3年次の主免許実習:「基礎実習」(4週間)  
7月初旬の1週間+8月下旬以降の3週間  
長野地区または松本地区の附属学校園
- 4年次の副免許実習:「応用実習」(2週間)  
6月中旬の2週間  
長野地区または松本地区の附属学校
- 地域の公立学校での教育実習ルートを開拓中

## 教育実習



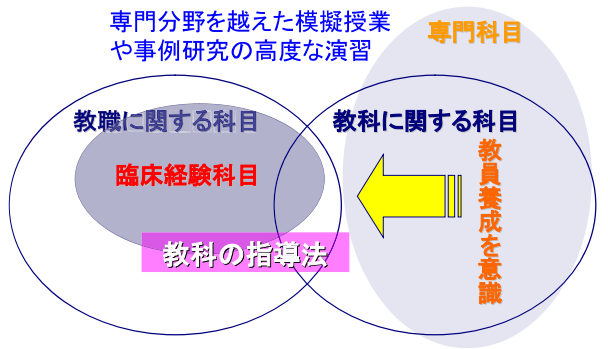
## 8. 評価 eポートフォリオ

- 記録の視点  
① 経験から学んだこと  
② 今後の課題
- 各観点を5段階で自己評価  
↓  
同じ専攻の学生間による相互コメント



## 9. 『教職実践演習』への対応

専門分野を越えた模擬授業  
や事例研究の高度な演習



## 10. 学部としての課題

—臨床教育推進室長の立場から—

- (1) 学ぶ意味や学ぶ価値が実感できる大学授業の創造  
→ カリキュラムと同時に、個々の授業の質的改善を!
- (2) 「体験」知を実践的知識に変換する理論の構築  
→ リフレクションの意義と方法に関する教員側の理解
- (3) 学びの履歴のデジタル・ポートフォリオ化  
→ 履修履歴のデジタル化・自己チェックリスト作成  
『教職実践演習』開設に向けた評価システムの構築

*M E M O*

---

## パネルディスカッション

### 教育現場で求められている教員の資質・能力

大阪府教育センター 教育企画部 部長 清水 隆

---

#### パネリスト 略歴

- |                |   |   |
|----------------|---|---|
| 略              | 歴 | 昭和53年3月 大阪外国語大学外国語学部英語学科卒業<br>同年4月 大阪府立高等学校・英語科教諭(至 平成8年3月)<br>平成 8年4月 大阪府教育委員会事務局及び教育センター指導主事<br>(至 平成14年3月)<br>平成14年4月 大阪府立長野高等学校教頭(至 平成16年3月)<br>平成16年4月 大阪府教育センター教科教育部カリキュラム研究室長<br>(至 平成19年3月)<br>平成19年4月 大阪府教育センター教育企画部長(至 現在)<br>平成20年4月 (兼務)帝塚山学院大学非常勤講師(至 平成20年7月) |
| 社会における<br>主な活動 |   | 文部科学省指定「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(SELHi)」運営指導委員(平成16年～現在)<br>大阪府立長野高等学校, 大阪府立寝屋川高等学校, 大阪府立池田高等学校<br>国立教育政策研究所「教科等の構成と開発に関する調査研究」研究開発学校分析委員(平成16年年度～17年度)<br>帝塚山学院大学 文部科学省委嘱「わかる授業実現のための教員の教科指導力向上プログラム」推進委員(平成18年度)<br>関西外国語大学 文部科学省認定「現代GP取り組み支援プログラム」評価委員長(平成18年～現在)      |
| 著              | 書 | 「英語における基礎・基本の指導法」大阪府教育センター研究報告収録, 第115-07号(2000)  |

1 府民が求める教員像

～大阪府教育委員会 平成 16 年度教員採用アンケートより～

2 大阪府が求める教員像

豊かな人間性      実践的な専門性      開かれた社会性

3 これからの教育がめざすもの

・「生きる力」と「人間力」

4 教職として必要な資質・能力

確かな力量      強い情熱      総合的な人間力

5 教育現場で求められるのは・・・

・「初任者に身に付けさせたい力」

～大阪府教育センター 平成 20 年度 小中学校管理職に対するアンケート～

・キャリアステージに応じて

・世代交代の時期を迎えて

・様々な教育課題に対応するために

平成20年12月13日  
 鳴門教育大学 特色GP・専門職GP シンポジウム

**「教育現場で求められている教員の資質・能力」**

大阪府教育センター 教育企画部長 清水 隆

### 求められる教員像

大阪府民の声から

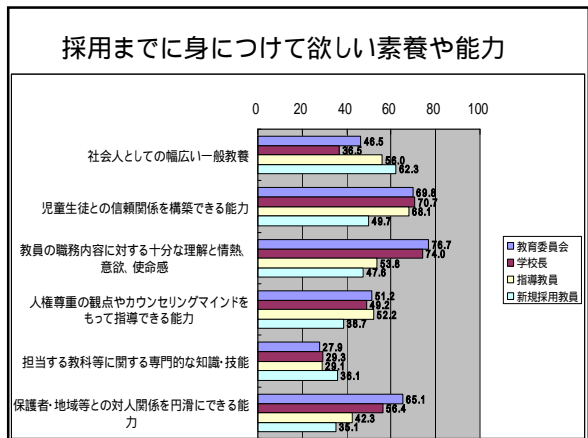
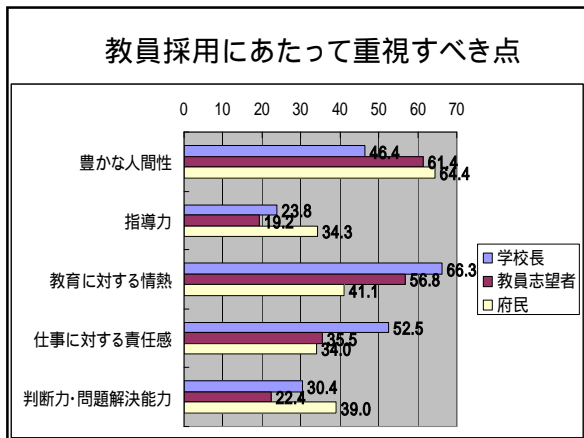
「教員に対して期待すること」  
 「子どもの興味・関心を引き出し、個性を伸ばしてやること」

「教員採用において重視すべきこと」  
 「豊かな人間性」

「今後の大阪の教育を考える上で重要なこと」  
 「社会の基本的なルールや善悪の判断を教えること」

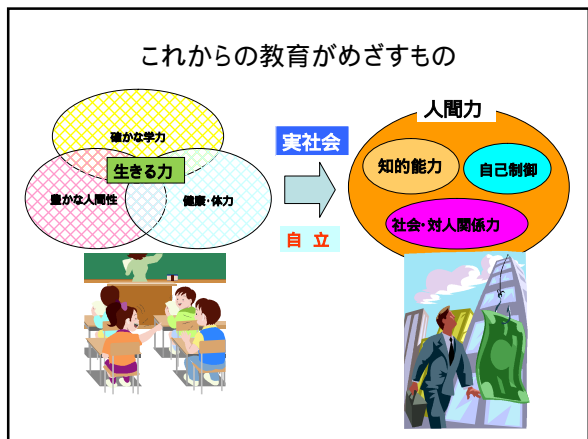
「今まで習った教員の中で、最も印象に残っている教員」  
 「人間の魅力にあふれていた」  
 「授業をわかりやすく教えてくれ興味を持てるようになった」

～大阪府教育委員会 平成16年度教員採用アンケートより～



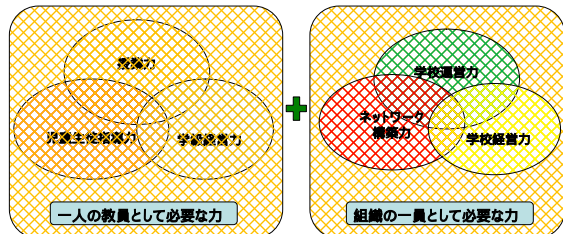
### 大阪府が求める教員像

- 「1 豊かな人間性」**  
 何よりも子どもが好きで、子どもと共感でき、子どもに積極的に心を開いていくことができる人
- 「2 実践的な専門性」**  
 幅広い識見や主体的・自立的に教育活動に当たる姿勢など、専門的知識・技能に裏打ちされた指導力を備えた人
- 「3 開かれた社会性」**  
 保護者や地域の人々と相互連携を深めながら、信頼関係を築き、学校教育を通して家庭や地域に働きかけ、その思いを受け入れていく人





## 教育現場で求められるのは



## 指導が不適切な教員とは

教科に関する専門的知識、技術等が不足しているため、学習指導を適切に行うことができない。  
 (例)教えることに誤りが多い。  
 児童生徒の質問に正確に答えることができない。

指導方法が不適切であるため、学習指導を適切に行うことができない。  
 (例)ほとんど授業内容を板書するだけ。  
 一方的に説明するだけで質問等を受け付けない。

児童生徒の心を理解する能力や意欲に欠け、学級経営や生徒指導を適切に行うことができない。  
 (例)児童生徒の意見を全く聞かず対話もしない。  
 児童生徒とのコミュニケーションをとろうとしない。

## 「こんな教師に習いたい」

- 授業をきちんと教える教師
- 授業とそれ以外のけじめをつける教師
- 幅広い授業をする教師
- 生徒に力を発揮する場を作ってくれる教師
- 生徒の立場に立って考えられる教師
- 生徒をわかろうと努力する教師
- 生徒に声をかけてくれる教師
- 生徒を信頼する教師
- やさしさの中に厳しさをもった教師
- 相談相手になってくれる教師
- 教えることに情熱を持っている教師

## 「こんな教師には習いたくない」

- えこひいきする教師
- 平気で生徒を傷つけることを言う教師
- 生徒をばかにする教師
- 自慢をする教師
- 愚痴を並べたり、皮肉を言ったりする教師
- 同じことばかりくどくどと繰り返す教師
- 質問に答えてくれない教師
- みんなの前で点数を言う教師
- 宿題ばかり出す教師
- 教科書通りしか教えない教師

『英語授業成功への実践』 齋藤 栄二著より

*M E M O*

---



## パネルディスカッション

### 学部・大学院コア・カリキュラムの特色と育成する能力

鳴門教育大学 学長補佐(研究開発担当) 西園 芳信

---

## パネリスト 略歴

学 位 平成14年9月 博士(学校教育学) 兵庫教育大学

現在の研究分野 音楽科教育学, 教育実践学

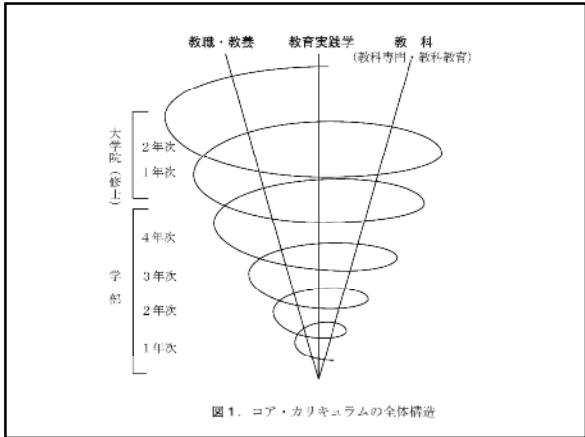
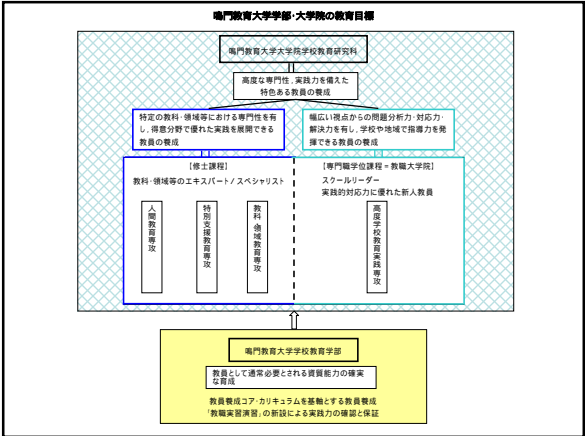
学会及び社会における主な活動 日本学校音楽教育実践学会事務局長(平成12年～現在)  
日本教科教育学会理事(平成9年～現在)  
中央教育審議会専門委員(平成17年6月～現在)  
文部科学省中学校学習指導要領の改善に関する改善協力者(平成18年7月～20年3月)  
国立教育政策研究所研究指定校(教科別指定)に係る企画委員会協力者(平成16年4月～現在)  
国立教育政策研究所教科等の構成と開発に関する調査研究協力者(平成16年9月～現在)

## 主要研究業績

『総合的な学習と音楽表現』黎明書房, 共著(2000)  
『中学校音楽科の指導と評価』暁教育図書, 編著(2003)  
『小学校音楽科カリキュラム構成に関する教育実践学的研究 「芸術の知」の能力の育成を目的にして』風間書房, 単著(2005)  
『教育実践学を中核とする教員養成コア・カリキュラム - 鳴門プラン - 』暁教育図書, 編著(2006)  
『生成を原理とする21世紀音楽カリキュラム - 幼稚園から高等学校まで - 』東京書籍, 共著(2006)  
「デューイ芸術的経験論にみる表現内容としての感覚的性質に関する一考察」『日本デューイ学会紀要』第45号, pp.162-169, 単著(2004)  
「教員養成におけるコア・カリキュラムの在り方 教大協と鳴教大プランの比較を通して」日本教育大学協会第二常置委員会編『教科教育学研究』第24集, 単著(2005)  
「デューイ芸術論にみる美の捉え方の特徴 - 特に状況の性質(quality)と表現内容としての性質(quality)に注目して - 」『日本デューイ学会紀要』第46号, pp.188-195, 単著(2005)  
「J. デューイの芸術経験論にみる『批評』(criticism)の概念についての考察」日本デューイ学会紀要, 第49号, pp.1-9, 単著(2008)

学部・大学院コア・カリキュラムの  
特色と育成する能力

鳴門教育大学  
2008.12.13  
西園芳信



1. 学部コア・カリキュラムの特色

1. 取り組み  
教育実践学を中核とするコア・カリキュラム  
授業実践力評価スタンダード  
知の総合化ノート  
授業実践映像データベース

2. 育成する能力  
「教育実践力」

2. コア・カリキュラムの全体構造

年次	新 科 内 容 学		教 科	
	教 養	教 職		
4年次	A:現代社会の諸問題 テーマ 1:地球の生態系 2:紛争と平和 3:現代の科学と倫理 等	教育実践科学 生徒指導論 特別活動指導論 進路指導論 授業研究論 教育評価論 教育課程論 等	教育実践学(コア) [教員インターンシップ] [臨床実習] [実習事後指導] [附属校実習] [初等中等教科教育実習] [附属実習] 実習実習 [初等中等教科教育実習] [初等中等教科教育実習] [初等中等教科教育実習] [ふれあい教育実習] [教育実践基礎演習] (教科教育実践) (教育実習)	教 科 専 門
3年次	B:身体運動・表現 コミュニケーション	教育実践論 人間形成論 発達心理学 教育心理学 教育制度・経営論 教育社会学 教職論		
2年次	スポート健康科学 基礎情報教育 英語コミュニケーション 等			
1年次				

3. 第1コア:「初等中等教育実践基礎演習」(1年前期)の授業

目標  
教職の意義(キャリア教育)の理解  
教科の成立と学びの意味の理解  
子ども理解と生徒指導  
学級づくり

担当  
教科専門・教科教育の大学教員  
附属や地域の現場教員で協働

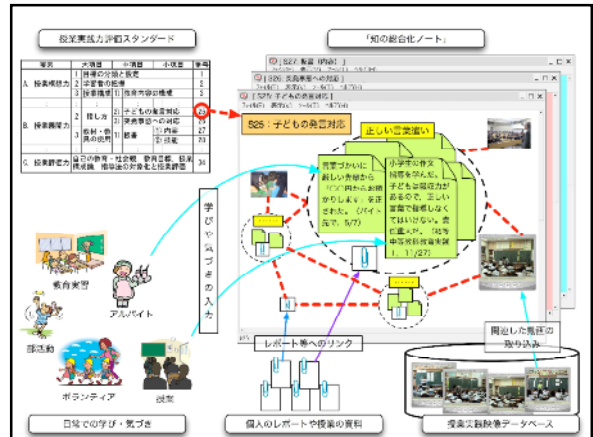
#### 4. 第2コア:「教育実習」と「教科教育実践」の授業

##### 「教科教育実践」

目標: 学校の教科授業を展開するための授業実践力の修得

内容: 各教科の教科内容の柱立ての理解, 単元構成と展開方法, ケーススタディ, 模擬授業等

担当: 教科専門・教科教育の大学教員と附属や地域の現場教員が協働



#### 5. 能力としての「教育実践力」の内容

##### 授業実践力

子ども理解力

学級経営力

対人関係能力

教職に関する意欲や態度

～ の総合

#### 6. 今後の課題

##### 1. 課題

4年次: 新しい授業科目「教職実践演習」を設定  
卒業時の能力評価基準となる「評価スタンダード」(授業実践力、生徒指導、コミュニケーション能力等)によって評価  
学生の卒業時点での教員としての教育実践力を保障

#### 大学院コア・カリキュラムの特色

##### 1. 取り組み

教育実践フィールド研究 + 広領域コア科目  
多様なキャリアをもつ大学院生の協働  
専門性を活かした授業の開発・実践

##### 2. 主に育成する能力

「授業実践力」

#### 既設大学院カリキュラム構成

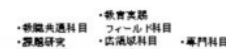


図3. 既設大学院

